RESASを活用した政策立案ワークショップ

～鹿角のきゅうりを盛り上げたい！～

2023年2月21日
秋田県鹿角市

01 はじめに ～令和3年度に行ったこと～

（１）「新たな鹿角流ビジネスモデルの構築に向けた課題と対策の検討」にむけて

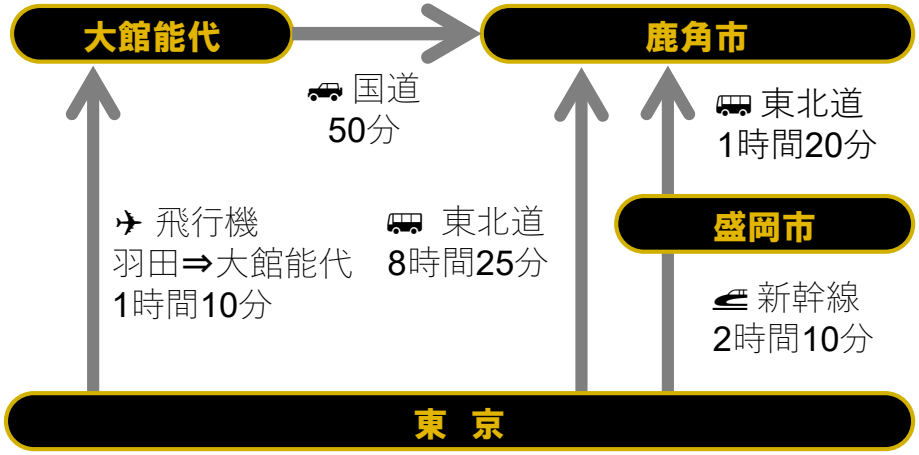
本市は、少子高齢化を要因として、産業各分野の担い手が減少、後継者不足になっている。また、多様な資源を抱えているものの、十分な付加価値を付けられず、稼げるポテンシャルを活かしきれていない。「稼げる産業」×「やりがいと楽しい産業」＝「やりたくなる仕事」となるような、鹿角市独自の新たなビジネスモデル構築に向け、取り組むべき課題を、鹿角市産業部及び総務部のメンバーにより、それぞれの担当分野である人口・産業・観光・農業・林業ごとに分析を行った。

（２）「RESASを活用した施策立案支援事業」の活用

地域の現状・実態を把握するツールとしてRESASを活用することし、施策立案に活用する手法について東北経済産業局の支援を受けながら、分析を実施した。産業分野、特に「製造業の労働生産性の向上」焦点を当て、ワークショップを経て、令和４年度の新規事業の立案を実施した。

鹿角市ってどこ？

北東北のちょうど真ん中にあります



国立公園の大自然に囲まれた多くの世界遺産を守り続けるまち

十和田八幡平国立公園の大自然に囲まれ、世界文化遺産と2つのユネスコ無形文化遺産を持つ全国でも類い希な文化都市です。
近代化産業遺産の史跡尾去沢鉱山と、２つの道の駅があり、観光及び産業の拠点となっています。
縄文時代から現代に至るまで、ここ鹿角市では様々な文化が生まれ、市民が大切に守り続けています。

中尊寺金色堂

東大寺盧舎那仏像

尾去沢鉱山の発見は、奈良時代の和同元年（708年）。開山1300年の歴史を持つ。伝記では、鉱山の金が奈良東大寺の大仏鋳造や、平安末期に奥州藤原氏によって築かれた平泉の黄金文化に貢献したと伝えられている。

鹿角市には道の駅が2つあります。

地域DMOの拠点「道の駅かづの」と地域商社の拠点「道の駅おおゆ」が鹿角産業の有機的な連携を生み出しています。

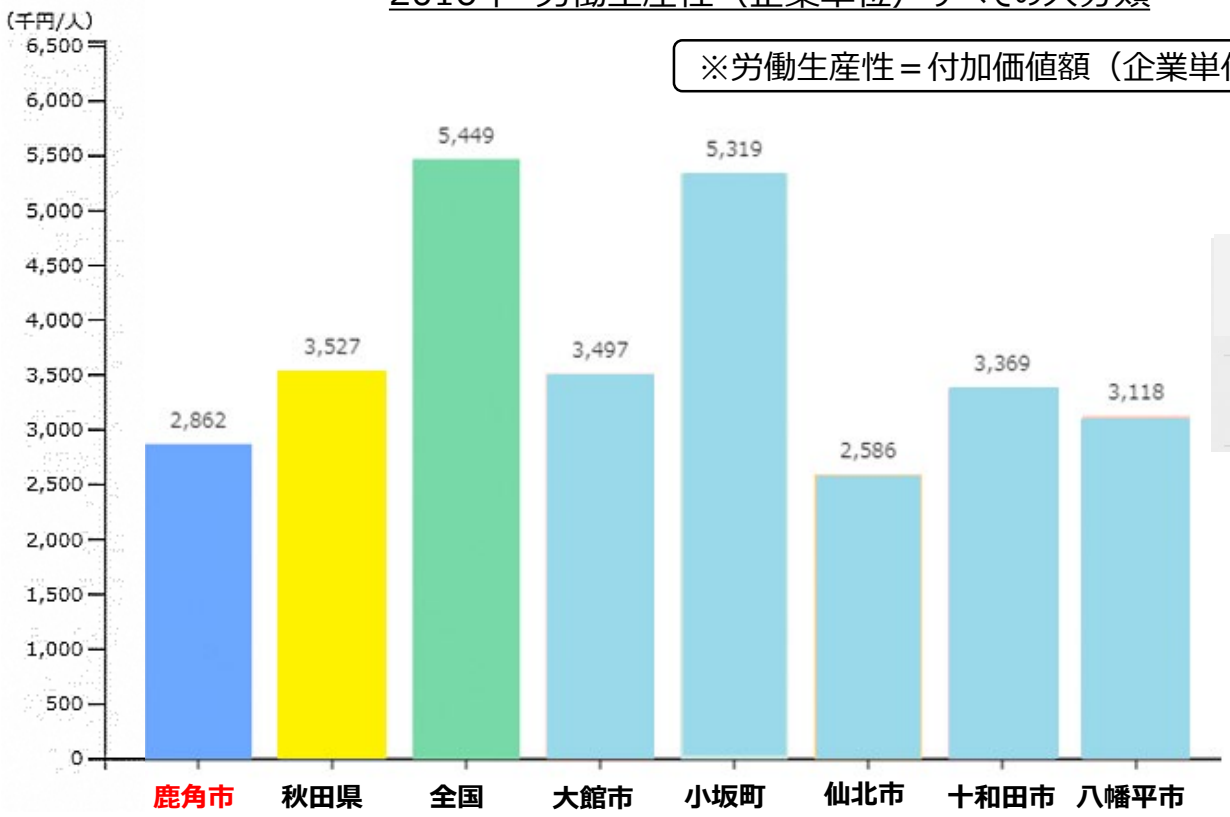
鹿角市の産業の労働生産性は相対的に低い

産業構造マップ → 全産業 → 労働生産性（企業単位）

➢ 企業単位での労働生産性を産業別に表示

2016年　労働生産性（企業単位）すべての大分類

※労働生産性＝付加価値額（企業単位）÷従業者数（企業単位）で算出



労働生産性（企業単位）順位
鹿角市(2016)

秋田県内	全国
17 位	1,442 位

RESAS_総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

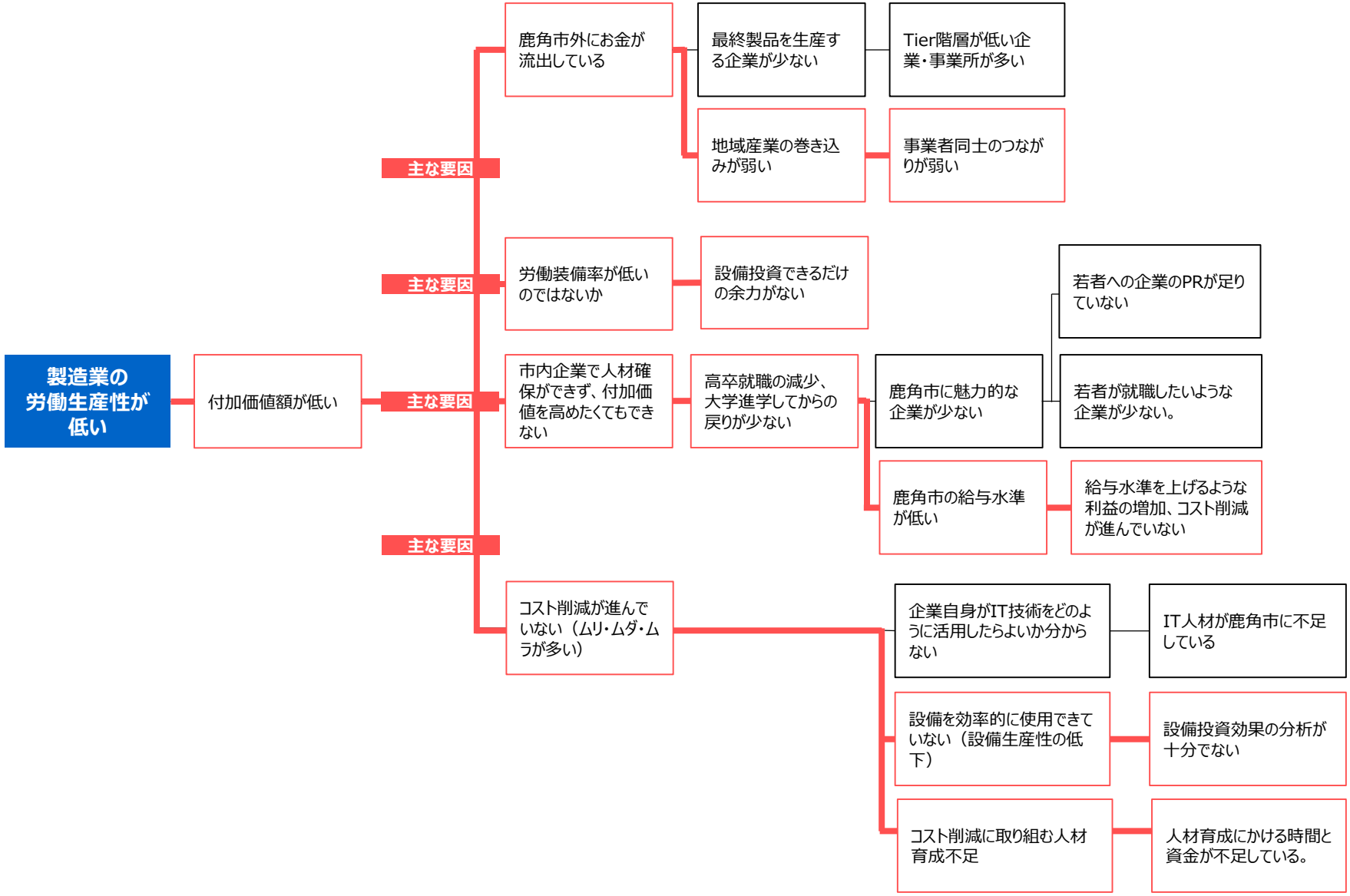
- 鹿角市の労働生産性は県、全国平均より低い。
- 近隣では、仙北市よりは高いが、大館市・小坂町・十和田市・八幡平市より低い。

鹿角市の強み・弱み・機会・脅威

	強み（strength）	弱み（weakness）
内部環境	• 生産額でみると、**３次産業の中では電気業の割合が秋田県・全国平均よりも際立って高い**。 • 稼ぐ力では**「林業」、「農業」が高い**。 • 「住宅賃貸業」、「電気業」は、比較的生産額が多く、域外からも稼いでいる産業である。 • 移輸出入収支では**「電気業」、「農業」、「宿泊・飲食サービス業」等が**プラスとなっており、**域外から所得を得ている**。 • 東北自動車道で北東北三県の主要都市と繋がっている。	• 鹿角市の**労働生産性は相対的に低い**。 • 介護事業や建設業など、社会保障費・公共事業費に依存する産業へのウェートが高く、**稼げる産業が育っていない**。 • **創業比率が低く**、事業者の新陳代謝が進んでいない。 • 地域経済循環率が低い。 • **市民所得が低い**。
	機会（opportunity）	**脅威（threat）**
外部環境	• 「脱炭素社会」への転換が世界的な潮流になっている。 • 半導体の国産化が進む。 • IoTやAIなどの進化により、労働力不足を補える可能性がある。 • 副業解禁に加え、コロナでテレワークが一気に進み、鹿角市外に転出しなくても働ける可能性がある。	• 全国的な人口減により、地方同士の人口の奪い合いが懸念される。 • ニプロ（大館市）の増設で、市内労働力のさらなる流出が懸念される。

注力すべき問題点：産業全体の労働生産性の低さ

製造業の労働生産性が低い要因を抽出



製造業の労働生産性を向上させるために

企業力強化促進事業

取組内容：**産業コーディネーター**を配置し、

①販路開拓、域内取引の拡大（継続）

【期待する効果】売上額の向上、移輸出入額の改善

②小集団改善活動の促進（継続）

【期待する効果】人材育成によるコスト削減

③財務分析（新規）

【期待する効果】個々の企業の課題を明確化

④DX推進（新規）

【期待する効果】コスト削減

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

②製造業の域際収支の改善を目指した産業の高付加価値化

解消したい要因

- 地場産業を巻き込めていない
- 給与水準が低い
- 設備投資効果の分析が十分でない

企業立地促進事業（高度化支援）

取組内容：**設備投資の助成（継続）**

【期待する効果】**労働装備率の向上**

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化

解消したい要因

- 設備投資して労働生産性向上につながっているものの、労働装備率や設備生産性が低下している企業もある

産業人材育成支援事業（研修・資格取得助成）

取組内容：**従業員の研修・資格取得にかかる費用を助成（継続）**

【期待する効果】人材育成によるコスト削減、売上向上

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える

取組方針1_地域産業の成長を支援します

①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化

解消したい要因

製造業の労働生産性を向上させるために

新たな取組み

・地域内連携事業（H28~R3）を発展させ、**「企業力強化促進事業」**として、
産業コーディネーターを増員して実施。

③財務分析（新規）

【期待する効果】個々の企業の課題を明確化

・中小企業診断士に依頼し、決算書を分析して
企業が取り組むべき個別課題を明確にする。

④DX推進（新規）

【期待する効果】コスト削減

・都市部に勤務するプロ副業人材と市内企業をマッチング
させ、DX導入によるコスト削減を図る。

令和４年度に取り組んだテーマ「農業」

観光　農業

人口　産業　林業

令和３年度のワークショップでは鹿角市の市民所得が低いという長年の課題に対して、産業を支えている製造業の労働生産性向上について議論を実施した。

農業

RESASを用いて深堀

ターゲットを絞って仮説の設定

施策・立案

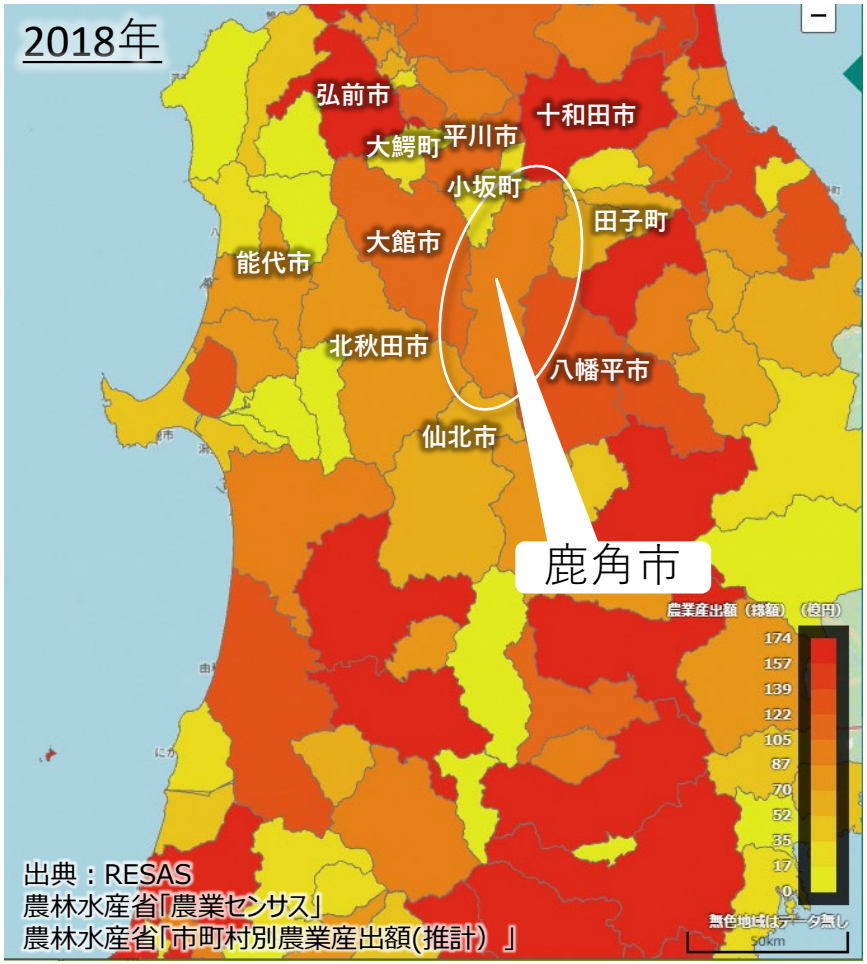
02

農業分析

鹿角市の農業の特徴

鹿角市の農業の特徴は？

産業構造マップ → 農業 → 農業算出額



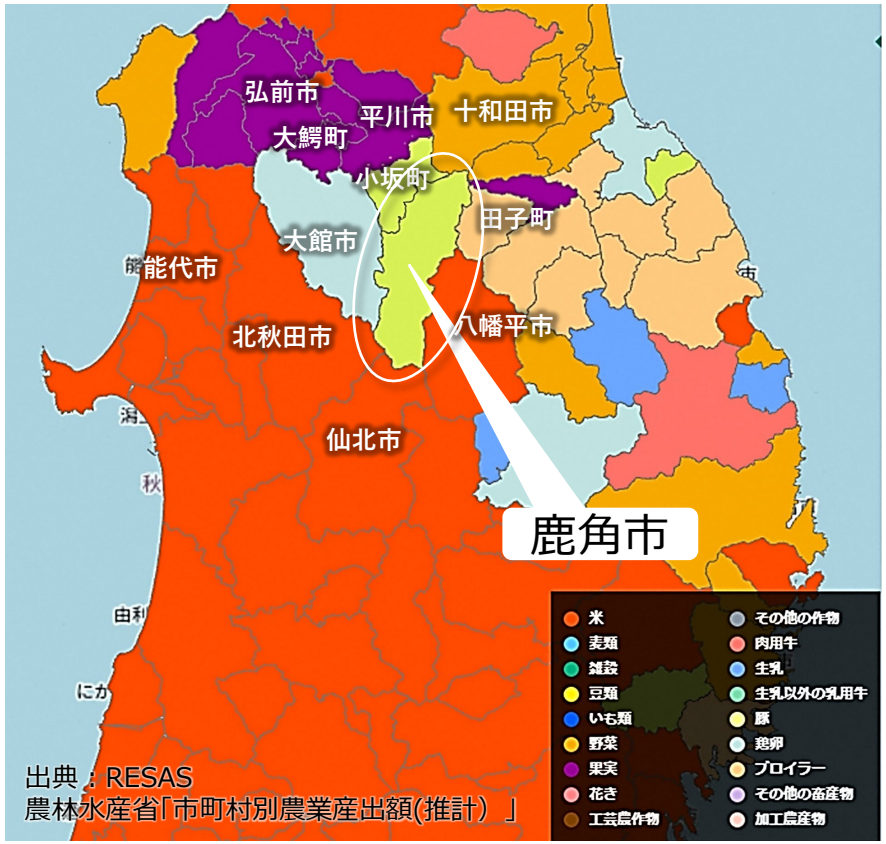
都道府県名	市区町村名	農業産出額計（千万円）
青森県	弘前市	4,298
青森県	十和田市	2,465
岩手県	八幡平市	1,393
秋田県	大館市	1,205
青森県	平川市	1,171
秋田県	**鹿角市**	**957**
秋田県	能代市	853
秋田県	北秋田市	745
青森県	田子町	690
秋田県	仙北市	656
青森県	大鰐町	281
秋田県	小坂町	244

- 本市を中心とした、北東北の周辺市町村と農業産出額を比較すると中位に位置する。

鹿角市の農業の特徴は？

産業構造マップ → 農業 → 農業の構造

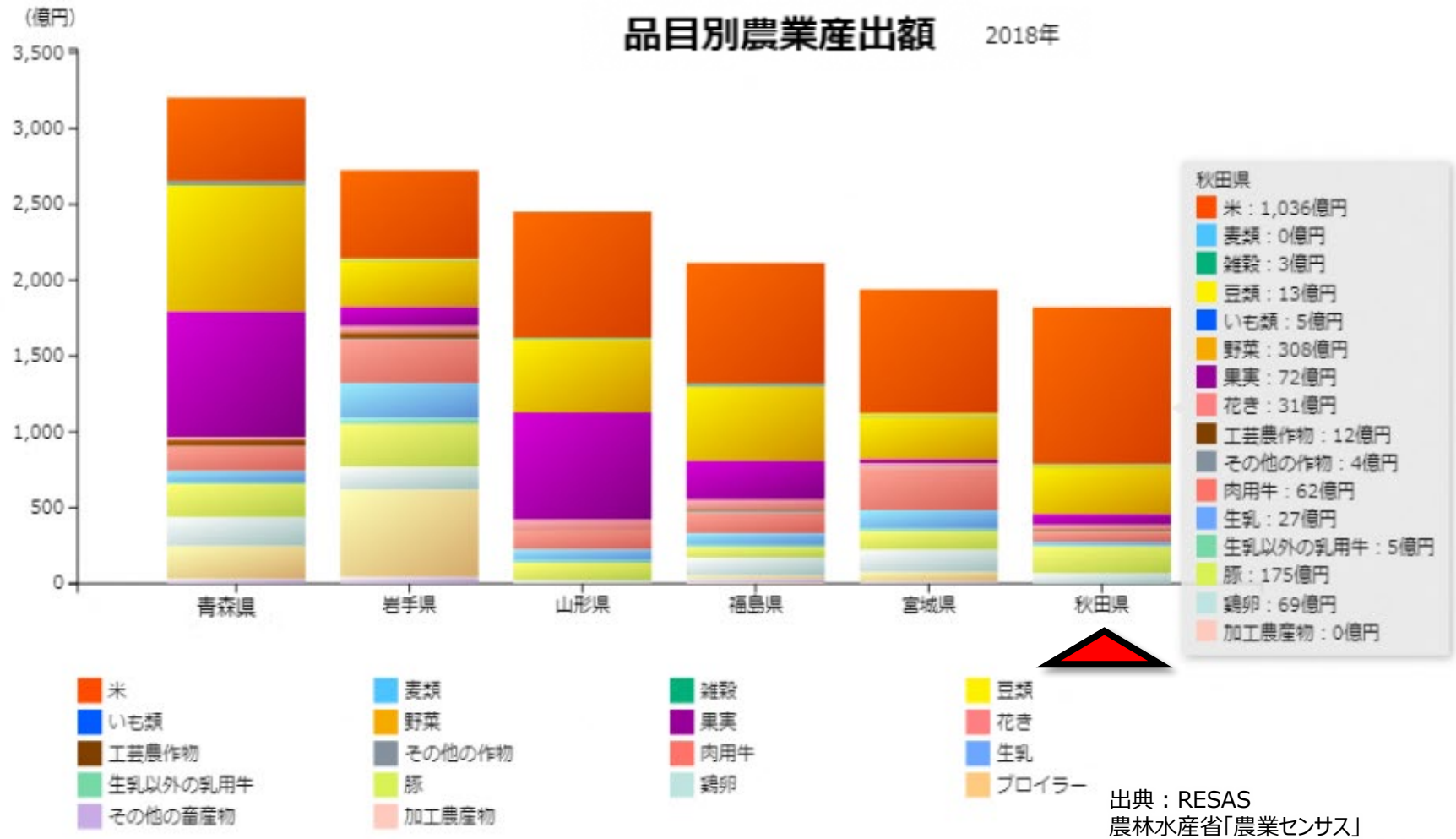
2018年の主要作物マップ



県名	市町村名	主要作物	主要作物の農業産出額（千万円）
秋田県	**鹿角市**	**豚**	**378**
秋田県	小坂町	豚	X(秘匿値)
秋田県	大館市	鶏卵	417
秋田県	北秋田市	米	359
秋田県	能代市	米	493
秋田県	仙北市	米	355
岩手県	八幡平市	野菜	226
青森県	弘前市	果実	3,576
青森県	十和田市	野菜	916
青森県	平川市	果実	680
青森県	大鰐町	果実	218
青森県	田子町	野菜	131

- 秋田県内では、第１位の作物はほぼ米。米以外が１位なのは、鹿角市、小坂町、大館市の３市町のみ。一方、岩手県、青森県では米の１位市町村が少なくなる。ヤマセの地域とリンゴの地域の中間に位置している。

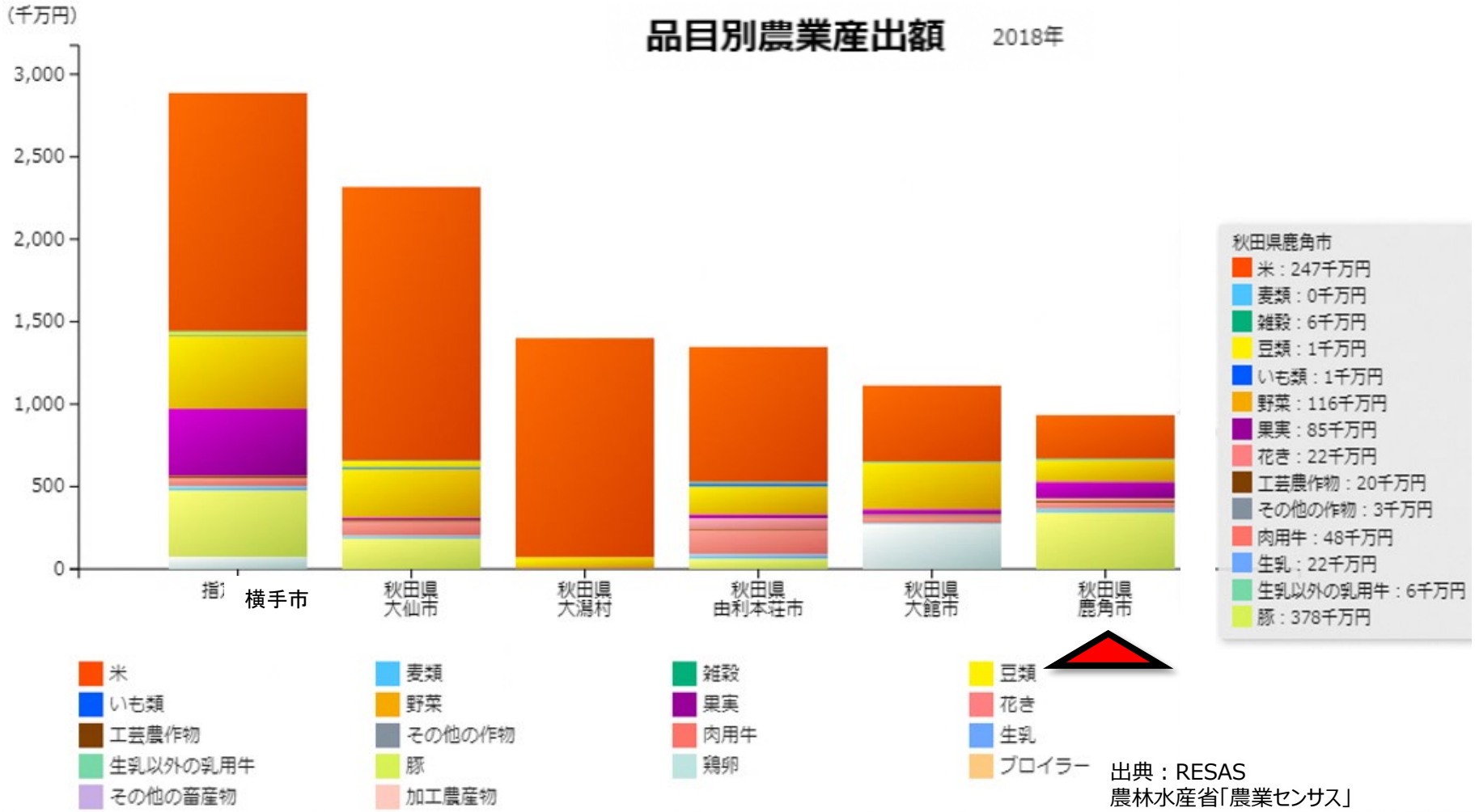
秋田県の農業産出額は？ -東北６県との比較-



出典：RESAS
農林水産省「農業センサス」
農林水産省「市町村別農業産出額(推計）」

- 秋田県の農業産出額は東北最下位である。他県に比べ、米の割合が多く、過半を占めている。

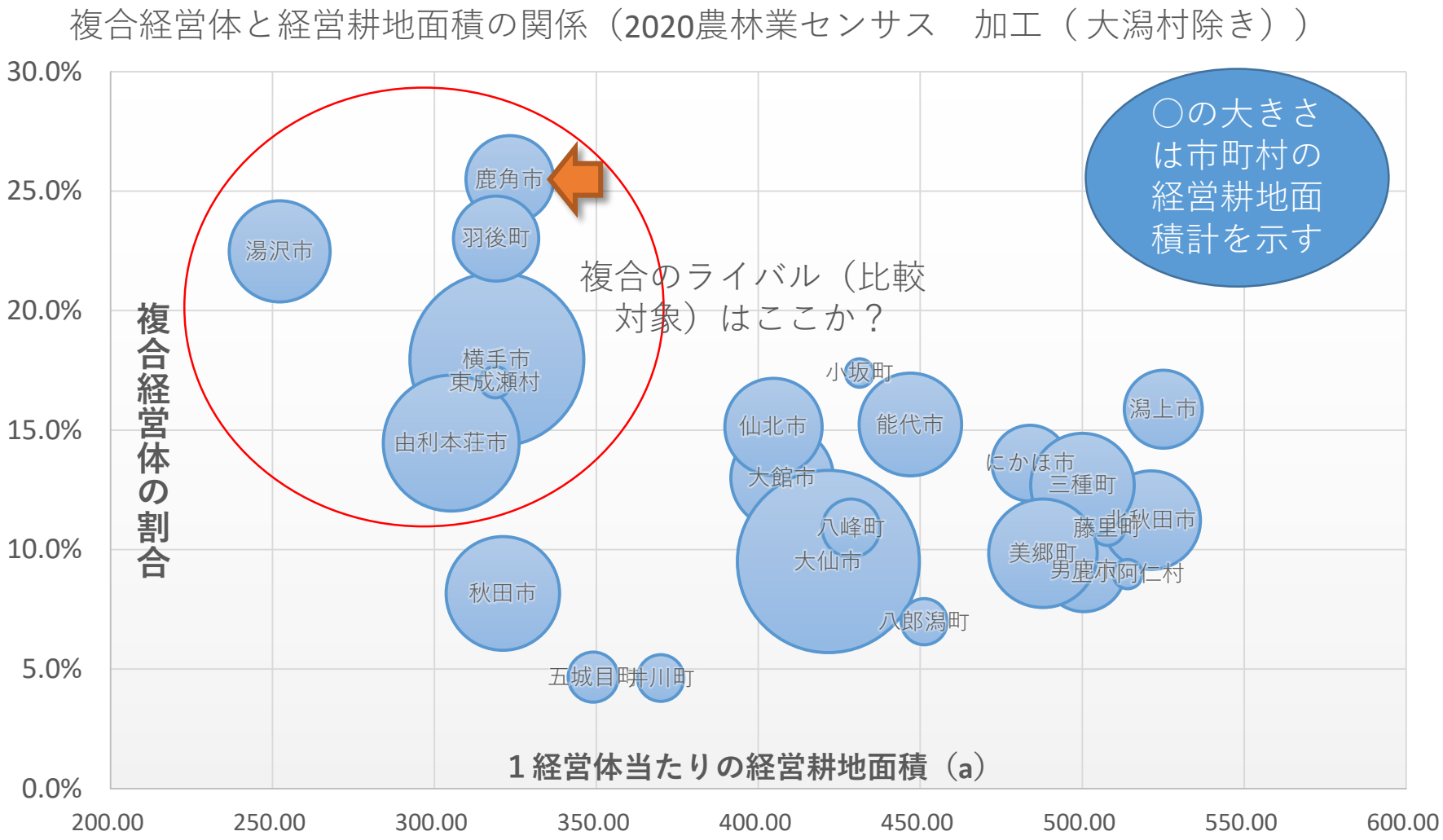
鹿角市の農業の特徴は？



出典：RESAS
農林水産省「農業センサス」
農林水産省「市町村別農業産出額(推計）」

- 平成30年度の鹿角市の産出額では秋田県内　第６位（957千万円）である。

鹿角市の農業の特徴は？



- １経営体あたりの経営耕地面積が少ないほど複合経営が進んでいる傾向がある。
- 大潟村は右下に突出するため省略。
- 複合経営　強み（米価下落の影響が弱まる）弱み（労働生産性低い？）

鹿角市の農業の特徴は？

販売額の県内順位（令和２年市町村別農業産出額）

区分		産出額計 ①+②+③	耕種計 ①	米	計	麦類				計	雑穀	計	豆類		計	いも類	
						小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦		そば		大豆	小豆		ばれいしょ	かんしょ
産出額		972	561	257	x	–	–	x	–	6	6	2	2	0	1	1	–
県内順位	R2	7	11	16	**5**			**1**		**1**	**1**	15	15	10	19	19	
	R１	7	13	16	**5**	**5**				**2**	**2**	15	15	10	18	18	
	H３０	6	13	16	**3**	**3**		**1**		**2**	**2**	18	18	12	15	15	10
	H２９	6	13	17	**3**	**3**				**2**	**2**	20	21	8	16	15	11

区分		計	野菜																		その他
			だいこん	にんじん	さといも	やまのいも	はくさい	キャベツ	ほうれん そう	レタス	ねぎ	たまねぎ	ブロッコリー	きゅうり	なす	トマト	ピーマン	いちご	メロン	すいか	
産出額		147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28
県内順位	R2	10	8	**1**	16	7	9	13	6	6	15	18	13	**1**	16	**4**	12	**3**	15	18	
	R１	11	8	**1**	15	7	9	11	6	6	15	18	15	**1**	16	**4**	9	**3**	14	18	
	H３０	10	12	**5**	12	**5**	10	14	7	10	15	20	12	**3**	17	**5**	10	**3**	10	16	
	H２９	11	12	**5**	13	**5**	10	13	7	8	15	20	12	**3**	18	**5**	8	**3**	10	14	

区分		計	果実														花き
			みかん	りんご	ぶどう	日本なし	西洋なし	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイフルーツ	パイナップル	
産出額		123	–	81	1	0	1	40	–	–	0	–	–	0	–	–	12
県内順位	R2	**3**		**2**	7	13	**5**	**1**			**2**			6			7
	R１	**3**		**2**	7	13	**5**	**1**			**2**			6			7
	H３０	**3**		**2**	8	14	7	**1**				7		**4**	**3**		**5**
	H２９	**3**		**2**	8	14	8	**1**				10		**4**	**3**		**5**

区分		計	工芸農作物					その他作物
			さとうきび	葉たばこ	茶（生葉）	てんさい	こんにゃくいも	
産出額		10	–	0	–	–	–	x
県内順位	R2	**3**						8
	R１	**3**						**5**
	H３０	**1**		**1**				**5**
	H２９	**1**		**1**				**5**

区分		畜産計 ②	肉用牛	計	乳用牛		豚	計	鶏		その他畜産物	計 ③	加工農産物	
					生乳	乳牛			鶏卵	ブロイラー			荒茶	畳表
産出額		411	37	25	21	4	348	0	–	x	1	–	–	–
県内順位	R2	**4**	**5**	6	6	**3**	**3**	12		**4**	8			
	R１	**3**	**5**	6	6	**3**	**3**	12		**4**	8			
	H３０	**3**	**4**	**5**	**5**	**3**	**2**	13		**4**	6			
	H２９	**3**	**5**	**5**	**5**	**3**	**2**	13		**4**	**5**			

- 県内順位では、産地形成やブランド化を進めている作物の特徴が出ている。
- 意外なのがいちご。①湯沢市、②羽後町についで3位。
- 統計データには、市でブランド化を進めている作物（淡雪こまち、枝豆、しぼり大根、ｼﾝﾃｯﾎﾟｳﾕﾘ、啓翁桜など）単独の産出額がないものも多い。

鹿角市の農業の特徴は？

産出額の全国順位（令和２年市町村別農業産出額）

区分		産出額計 ①+②+③	耕種計 ①	米	計	麦類				計	雑穀	計	豆類		計	いも類	
						小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦		そば		大豆	小豆		ばれいしょ	かんしょ
産出額		972	561	257	x	–	–	x	–	6	6	2	2	0	1	1	–
全国順位	R02	277	305	158	682			166		**26**	**21**	391	313	295	1115	940	
	R01	290	324	163	686	563				**43**	**38**	297	224	320	927	675	
	H30	281	345	186	651	532		153		**36**	**33**	486	367	526	811	526	1092
	H29	302	399	218	577	460				**60**	**54**	635	549	302	806	570	1091

区分		計	野菜																		
			だいこん	にんじん	さといも	やまのいも	はくさい	キャベツ	ほうれんそう	レタス	ねぎ	たまねぎ	ブロッコリー	きゅうり	なす	トマト	ピーマン	いちご	メロン	すいか	その他
産出額		147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28
全国順位	R02	392	345	156	992	247	358	650	307	763	380	1226	1183	**38**	688	213	715	566	524	940	
	R01	437	348	309	1000	188	376	575	304	657	389	1183	1183	**38**	685	224	651	557	520	913	
	H30	488	488	318	773	147	455	676	439	828	358	1282	993	**66**	725	233	572	581	321	787	
	H29	553	600	482	820	171	634	758	484	760	444	1300	1021	**86**	711	269	513	570	327	801	

区分		計	果実														花き
			みかん	りんご	ぶどう	日本なし	西洋なし	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイフルーツ	パイナップル	
産出額		123	–	81	1	0	1	40	–	–	0	–	–	0	–	–	12
全国順位	R02	156		**37**	510	648	**68**	**23**			579			358			485
	R01	181		**37**	503	633	**62**	**45**			467			353			474
	H30	204		**38**	516	666	**87**	**51**				691		249	536		332
	H29	205		**38**	553	666	103	**48**				719		246	561		354

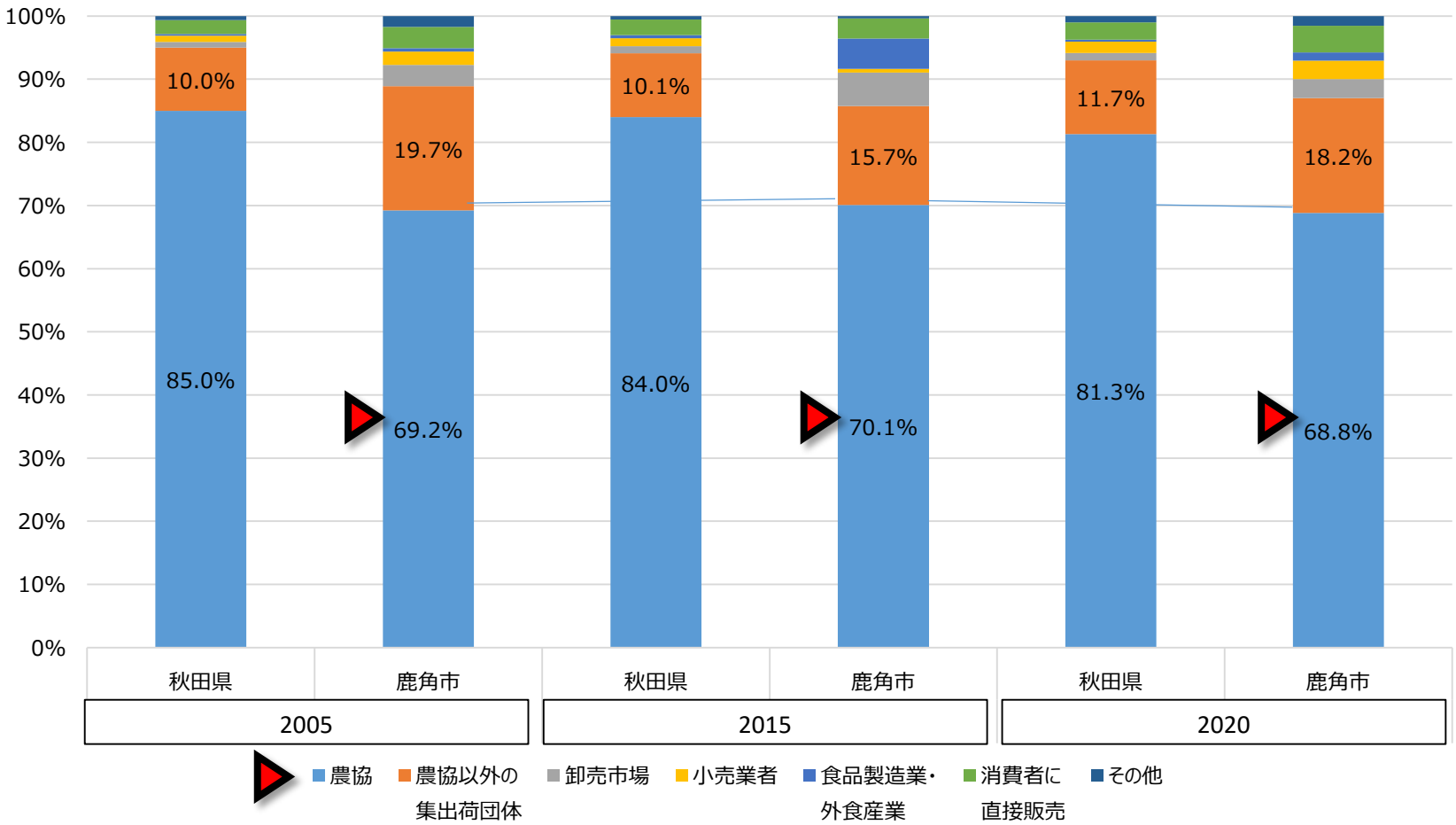
区分		計	工芸農作物					その他作物
			さとうきび	葉たばこ	茶（生葉）	てんさい	こんにゃくいも	
産出額		10	–	0	–	–	–	x
全国順位	R02	224						525
	R01	217						531
	H30	173		**44**				480
	H29	160		**35**				514

区分		畜産計 ②	肉用牛	計	乳用牛		豚	計	鶏		その他畜産物	計 ③	加工農産物	
					生乳	乳牛			鶏卵	ブロイラー			荒茶	畳表
産出額		411	37	25	21	4	348	0	–	x	1	–	–	–
全国順位	R02	221	398	476	474	402	44	856		370	298			
	R01	224	417	460	473	364	42	874		370	295			
	H30	191	362	468	487	363	35	932		395	215			
	H29	190	443	450	476	318	34	937		395	256			

- 特徴的な作物を黄色で着色。
- 時期や季節での特徴的なものもあるかもしれない（年額では把握できない）。
- 全国順位になると、県内順位に比べ途端に特徴がなくなる。

鹿角市の農業の特徴は？

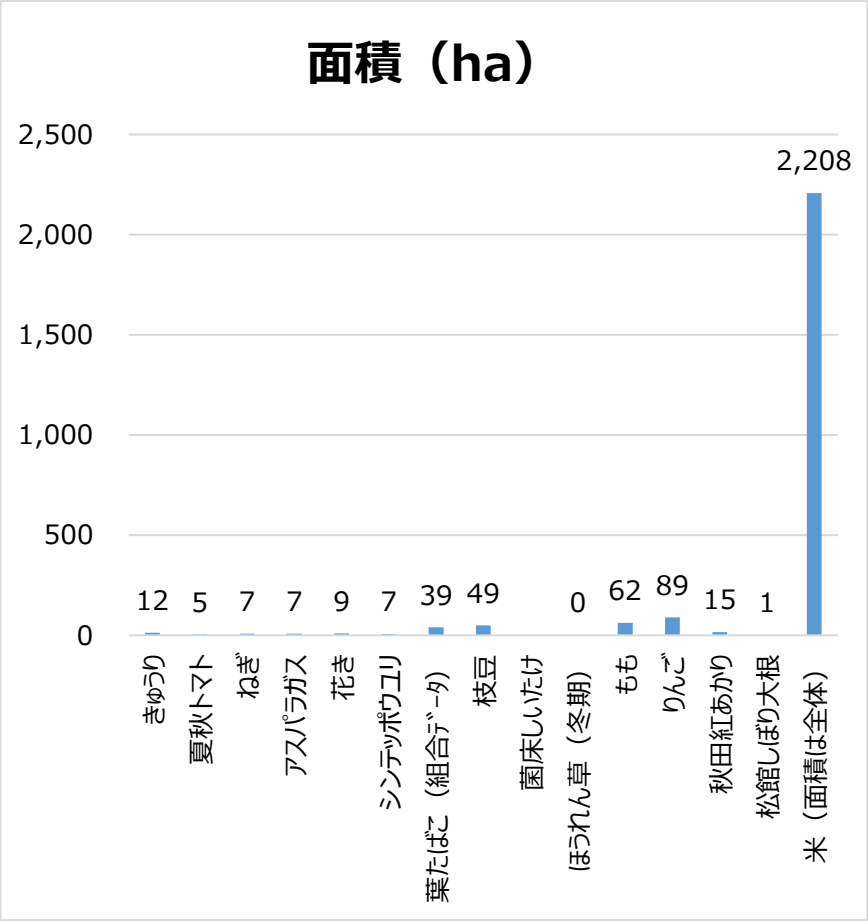
農産物販売金額１位の出荷先（農林業センサス）

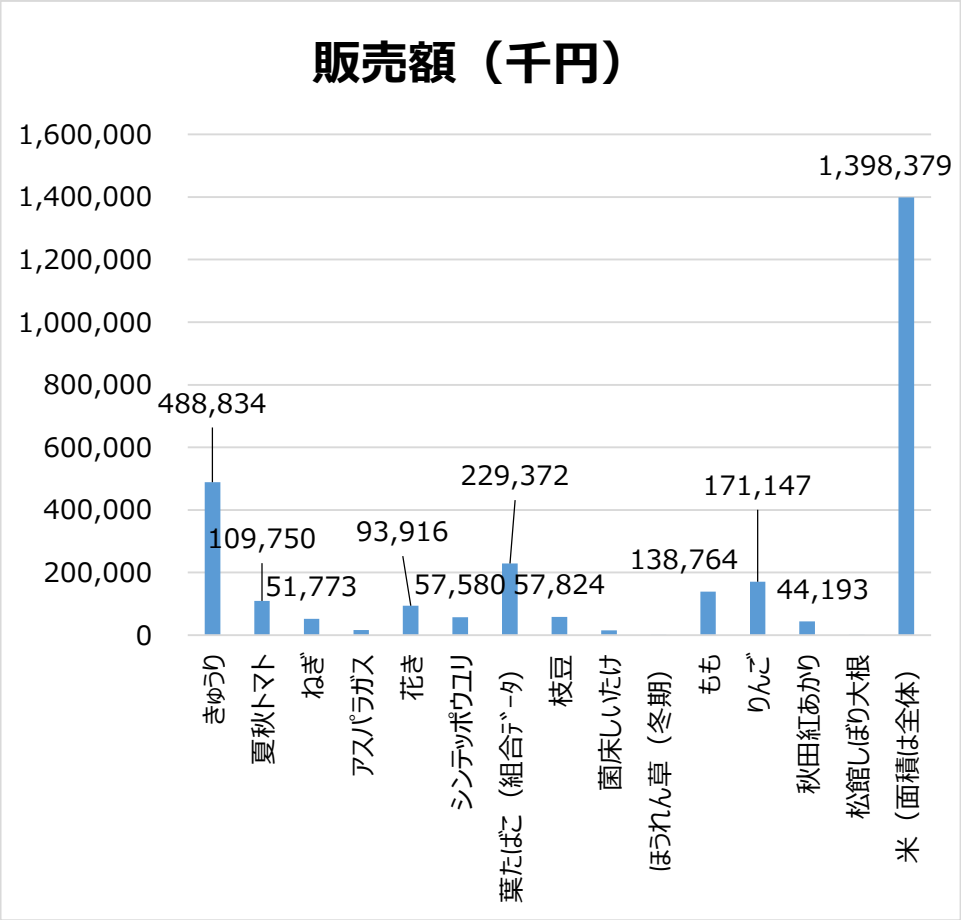


- 県全体でのＪＡへの出荷比率は下落傾向
- 鹿角市のＪＡへの出荷比率は微減

課題を裏付けるデータ

主要作物の作付面積および販売額（R2ＪＡかづのデータ）

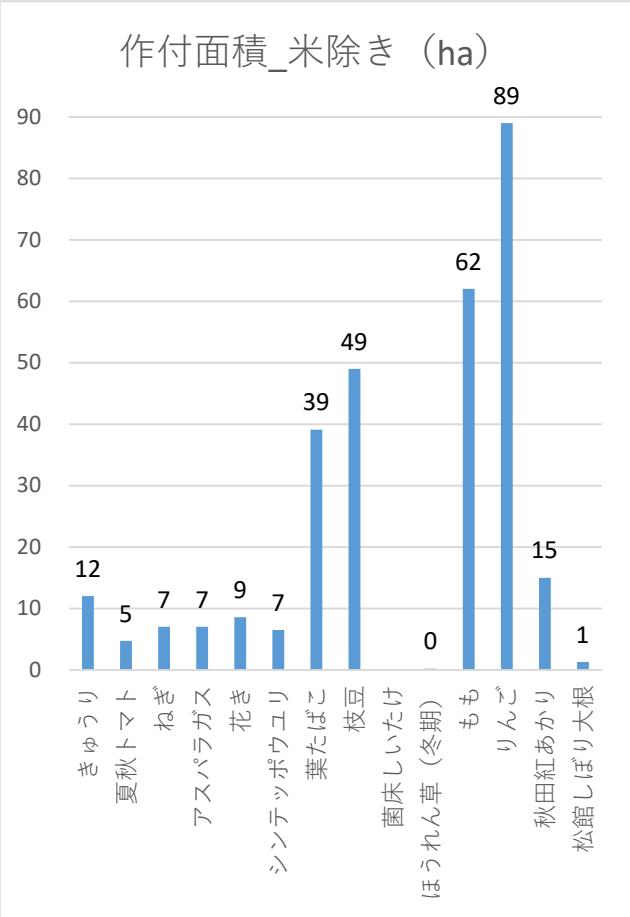


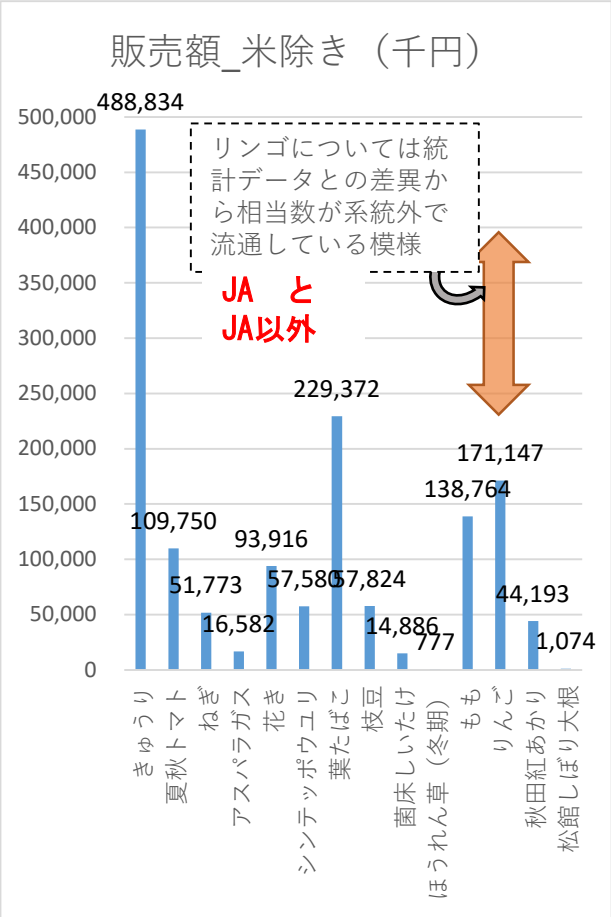


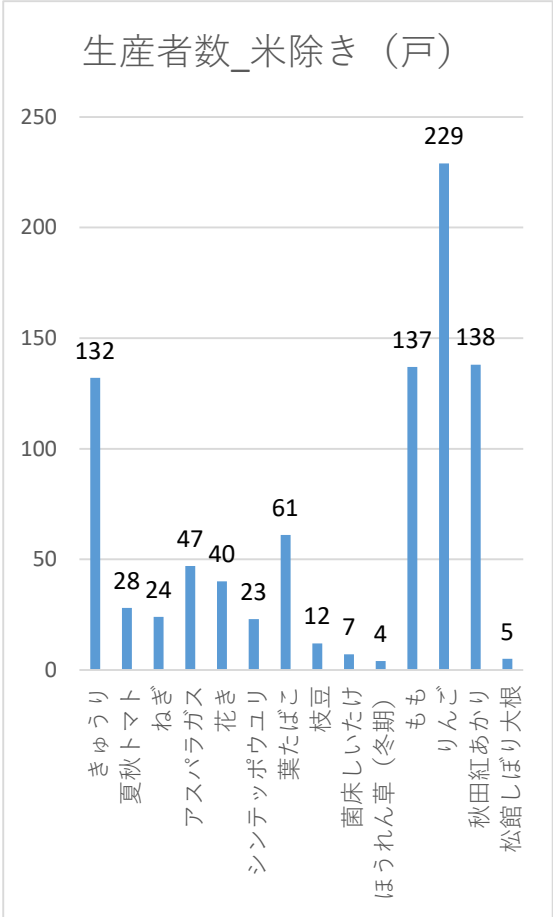
- 面積、販売額ともに米の占める割合が圧倒的に多い。
- 圧倒的な稼ぎ頭の米に需要減という大きな課題がある。コロナ前からの需要減少傾向とコロナによる需要減を踏まえ、米を品種ごと、販売先ごとにどのように有利販売するか検討が必要。

課題を裏付けるデータ

米以外の主要作物の作付面積および販売額（R2ＪＡかづのデータ）







- 面積はりんご、もも、えだまめ、葉たばこの順に多い。もも生産者数はりんごの内数。
- 販売額はきゅうり、葉たばこ、りんご、もものの順に多い。りんご・ももはJA以外の出荷も多い。
- 複合経営を特色づけるこれら作物の方向性を作物ごとに分析し、示す必要がある。
- 面積、販売額、生産者数は比例しない（面積当たりの販売額の違いをどうとらえるか）
- 時間当たり、人数あたりの販売額、労働生産性はどうなのか？

課題の整理（農業生産と流通）

	課題を抱える作物	伸びしろがある作物
ＪＡ系統出荷	＜現状維持＞ ○**米、りんご** ※人材確保・省力化へテコ入れ ※多数が取り組める有利販売につながる生産方法や市場分析を実施	＜作付け拡大＞ ○**桃**：市場に求められている。今まで以上に作付け拡大を推進 ○**きゅうり**：作りやすさから新規就農者が多い。時期分散など市場分析が必要 ○**ネギ**：法人参入により伸びている。人材確保、生産確立、市場分析。
ＪＡ以外への出荷	＜個人販売・売り先拡大＞ ○**りんご**：ふるさと納税などをきっかけに有利販売の環境整備し広げていく ○**そば**：まずは面積拡大をおさえ、適正管理に切り替え。他産地を参考に品質を向上して有利販売へ。	＜生産・流通へ仕掛け＞ ○**いちご**：実は県内でも生産上位。北東北にも観光いちご園はあるものの、道の駅と結びつけはまだないのでは。 ○**米**：JA・主食業者との調整も必要だが、ふるさと納税や精米販売に可能性があるのでは。

観光・食品製造との連携

農業産出額を向上させるために

「農業生産」への対応策（内部的）

◆省力化・収量増
・スマート農業推進事業（拡充）
・各種機械等導入支援に関する事業（継続）
【期待する効果】高齢化への対応。収量・品質の増加。

野菜等
米

◆人手不足
・農業サポーターマッチング事業（拡充）
・新規就農者育成支援事業（拡充）
【期待する効果】人材確保による生産拡大、有利販売への取り組み

りんご
きゅうり

◆大規模化
・農地集積促進事業、県営基盤整備事業（継続）
【期待する効果】農地集積・集約による生産コストの削減

米
野菜団地

鹿角市第7次総合計画との関連性

基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える
取組方針1_地域産業の成長を支援します
③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化
④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上

取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します
③農林業の担い手育成と定着支援

解消したい要因

法人の許容面積が限界に近いのではないか

人手が足りていないのではないか（人件費捻出できない？単なる人材不足？）

省力栽培技術が無い、もしくは普及されてないのではないか

農業をしたいと思わないのではないか

マーケットインの考えでつなぐ（作物ごとにフォーカスを当て、SWOT分析、要因分析）

「流通経路」への対応策（外部的）

◆価格へ転嫁できる取り組み
・農畜産物販売促進事業、アグリビジネス支援事業（継続）
【期待する効果】
プランディング
域内流通（観光・食品製造との連携）
他市場、ふるさと納税、ECサイト
系統出荷（まずはゼロ予算、県・JAと連携）

栽培方法、GI
いちご
米
きゅうり、ネギ

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む
取組方針23_販売重視型農業と6次産業化を進めます
①、②、③

解消したい要因

価格に反映できるような鹿角の農業の強みが見えていないのではないか

販売額が低いからではないか

特色と課題を再整理

鹿角市の農産物は特色が多い

↓

作物・流通経路の組み合わせで
課題・対策が分岐する

↓

＜要素を減らし整理する＞

農業生産(作物ごと)
流通経路(市場・外)

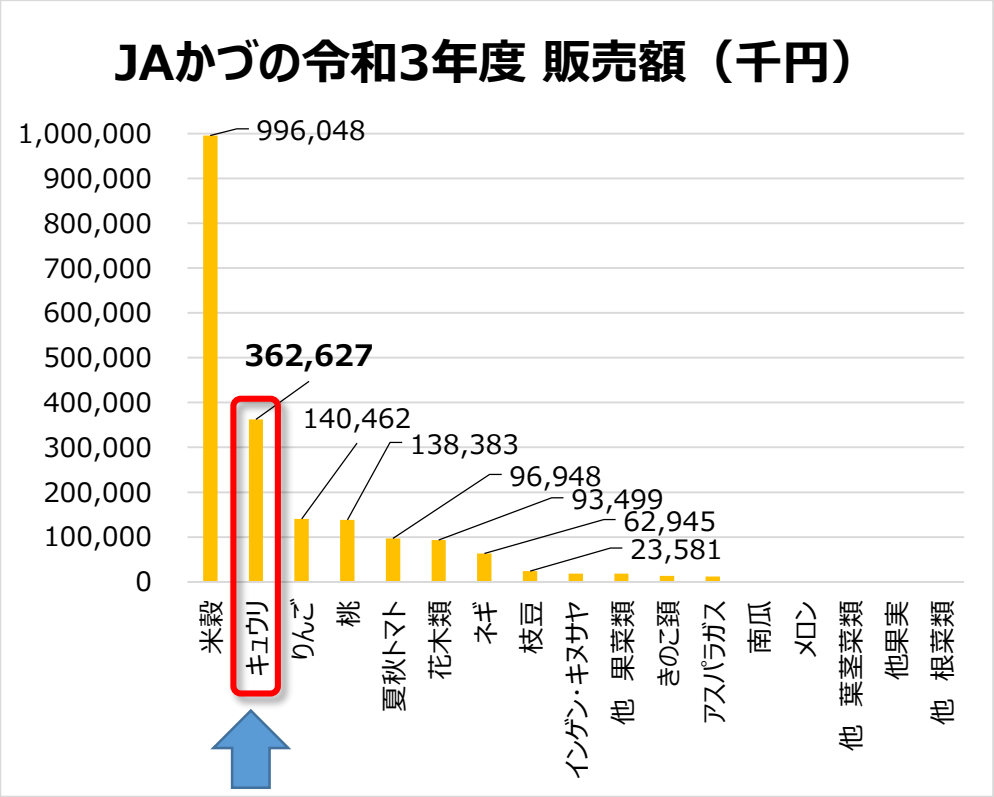
↓

作物ごとに課題整理

↓

JA販売額第２位で、10a当たりの単収（※）が増加しているきゅうりに着目

※単収とは･･･一定面積(10aが通常)あたりの収量(kg)



きゅうり

年度	戸数（戸）	面積（ha）	生産量（t）	単収（kg/10a）
21	231	21.4	1,656.0	8,056
22	212	20.2	1,710.5	8,900
23	179	17.8	1,692.3	9,756
24	173	17.1	1,812.7	11,241
25	156	15.5	1,665.3	11,600
26	146	13.8	1,640.5	11,888
27	142	11.8	1,604.4	13,597
28	142	11.7	1,626.0	13,897
29	138	10.8	1,452.0	13,444
30	132	10.4	1,368.0	13,154
R１	132	10.4	1,559.6	14,996
R２	132	12.0	1,465.9	12,216
R３	134	10.4	1,518.3	14,599

ＪＡかづの販売実績（鹿角市分）

03 鹿角市のきゅうりの特徴

農業分析

秋田県内での鹿角産きゅうりの立ち位置は？

2020センサス　販売目的のキュウリの作付面積

	市町村	きゅうり（経営体数）経営体数	順位	路地 経営体数	順位	路地 面積（a）	順位	路地 1経営体あたりの面積	順位	施設 経営体数	順位	施設 面積（a）	順位	施設 1経営体あたりの面積	順位
1	秋田県	846		638		6,617		10.4		294		1,585		5.4	
2	鹿角市	122	2	120	1	2,246	1	18.7	1	18	7	96	7	5.4	4
3	横手市	139	1	110	2	1,435	2	13.0	4	48	1	216	3	4.5	6
4	湯沢市	85	3	60	3	694	3	11.6	5	38	2	423	1	11.1	2
5	由利本荘市	58	6	38	7	553	4	14.6	2	24	5	45	8	1.9	11
6	羽後町	45	9	34	8	452	5	13.3	3	18	7	236	2	13.1	1
7	北秋田市	45	9	39	6	419	6	10.7	6	7	12	34	9	4.8	5
8	大館市	49	7	29	9	172	7	5.9	10	26	4	109	6	4.2	7
9	秋田市	66	5	51	5	150	8	2.9	14	17	9	22	11	1.3	14
10	大仙市	78	4	55	4	140	9	2.5	16	31	3	129	5	4.2	8
11	三種町	18	13	12	12	74	10	6.2	8	6	14	14	13	2.3	10
12	美郷町	30	10	16	10	63	11	3.9	11	18	7	182	4	10.1	3
13	仙北市	19	12	14	11	44	12	3.1	12	6	14	23	10	3.8	9
14	能									12	10	16	12	1.4	13
15	五									1	20		18		##
16	大									9	11	13	14	1.4	12

農事組合法人 なごみ

項　目	内　　容
法人設立月日	H31.2.5
参加農家戸数	13戸
経営面積	20. 3ha （地区内14. 2ha、地区外6.1ha）
作付作物	水稲　　18.4ha（加工用米含む） キュウリ　1.9ha
特　　色	・園芸メガ団地事業（サテライト型）を活用しキュウリを栽培。 ・収穫や選別作業の労力は、地域雇用で対応。

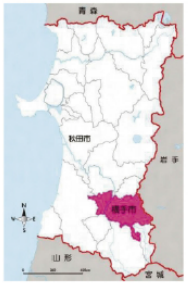
「なごみ」サテライトメガ団地の特徴

①（農）メガファーム（十文字町）と連携
統一ブランド・パッケージでの市場出荷
スケールメリットの発現 ⟹ 販売競争力強化

②防虫ネットハウス栽培の導入
・自然災害（降雹、強風、豪雨など）に強い
・ハチによる受粉　・害虫の侵入を抑制
農薬の使用と風雨等による作物の損傷を低減
品質・付加価値の向上と販売収量の増加

③作型の組み合わせによる多様化・効率化
ビニールハウス、ネットハウス、露地栽培の
3つの作型の組み合わせ
「出荷時期の長期化」、「労力の平準化」

図１　横手市の位置図



2　産地栽培カレンダー

当地におけるきゅうりの取り組みは、昭和53年頃に行われた水田利用再編を契機に転作作物として開始され、近年の栽培面積も増加傾向で推移している。

現在、きゅうりに取り組む生産者は91名、栽培面積14.01ヘクタールで内訳は露地栽培が79%、施設栽培が21%の典型的な露地主体の作型であるが、近年は防虫ネット作型が増加しており13%までに拡大している（図2）。なお、作型別の栽培体系は図3のとおり。

一戸当たり栽培面積は15.4アールと小規模だが、近年は県の園芸メガ団地育成事業(注)を活用し、1ヘクタール以上の大規模経営体が参入している（令和3年度：3人）。

（注）：園芸メガ団地育成事業とは、品目を極力集約し、団地化により販売額1億円を目指すことを目的に実施された県単独事業である。JAが事業実施主体となった場合の事業費負担は、県1／2、市町村1／4、JA1／4となり、生産者は初期投資を極力抑え取り組むことが可能となる。

図２　きゅうり作型別栽培面積の推移

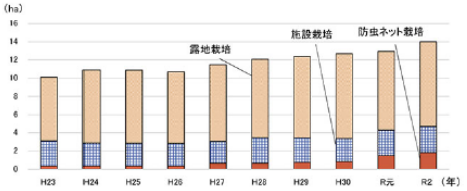
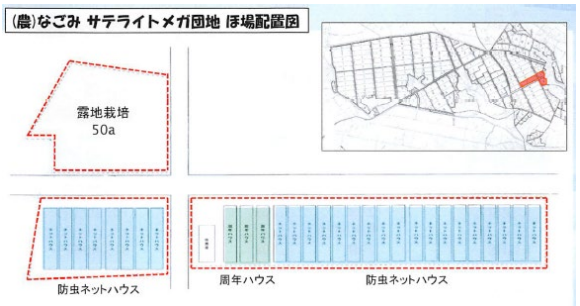


図３　きゅうりの作型別栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
半促成			○--	△------	▲--	------	▲					
抑制							○---	△----	▲------	------	▲	
露地					○----	△---	▲---	------	------	▲		
ネット				○---	△---	▲---	------	------	------	▲		

注：○は播種、△は定植、▲は収穫を示す。



秋田県内でのきゅうり産出額の比較

産出額の県内順位（令和２年市町村別農業産出額）

R2年　農業産出額（キュウリ）

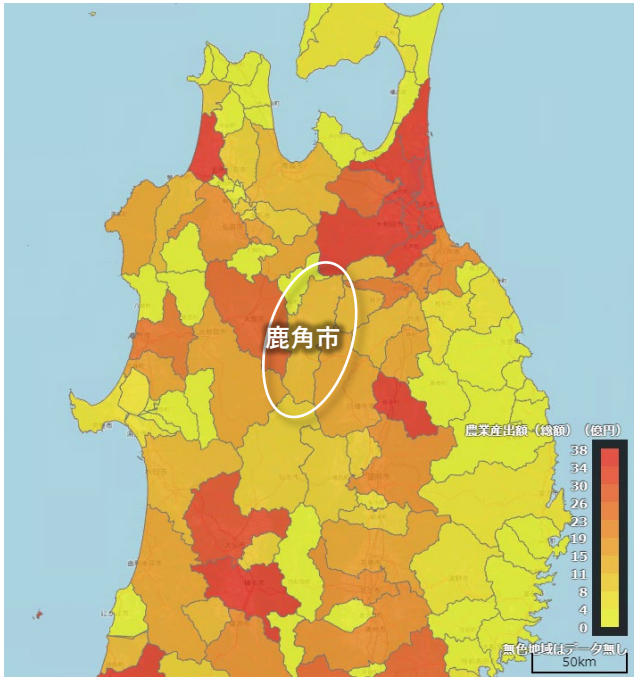
	産出額(1,000万円)	県内順位	全国順位
鹿角市	71	1	38
横手市	50	2	51
湯沢市	34	3	87
羽後町	21	4	142
由利本荘市	18	5	166
北秋田市	14	6	221
大館市	9	7	326
大仙市	8	8	339

R1年　農業産出額（キュウリ）

	産出額(1,000万円)	県内順位	全国順位
鹿角市	57	1	38
横手市	40	2	54
湯沢市	27	3	94
羽後町	17	4	151
由利本荘市	15	5	174
北秋田市	11	6	233
大館市	7	7	355
大仙市	7	8	360

- きゅうりの農業産出額は２年連続県内第一位。
- 露地栽培での単収の高さ＝技術力の高さが要因と考えられる。

きゅうりの販売額の伸び悩み



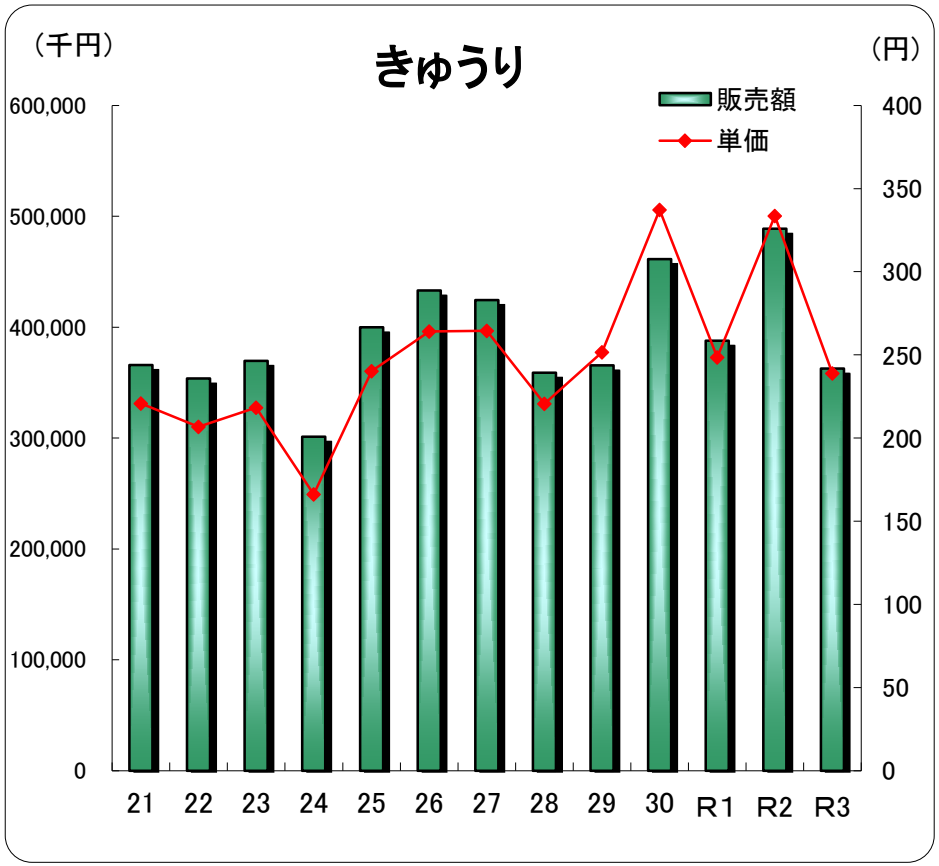
出典：RESAS
農林水産省「農業センサス」
農林水産省「市町村別農業産出額(推計）」

計	野　菜																		
	だいこん	にんじん	さといも	やまのいも	はくさい	キャベツ	ほうれん そう	レタス	ね ぎ	たまねぎ	ブロッコリー	きゅうり	な す	トマト	ピーマン	いちご	メロン	すいか	その他
147	3	4	0	1	1	1	4	0	7	0	0	71	2	22	0	3	0	0	28
127	3	1	0	1	1	1	4	0	6	0	0	57	2	20	0	3	0	0	28
116	2	1	0	2	1	1	3	0	7	0	0	39	2	23	1	3	1	0	30
101	2	1	0	1	1	1	3	0	6	0	0	30	2	19	1	3	1	0	30

- 2020年の農業産出額(野菜)は14億7千万円で近隣市町村のなかでも平均に近い。
- 統計データでは野菜の産出額は増加傾向であり、そのけん引役は「きゅうり」である。
- 一方でJAかづのの販売額では・・・

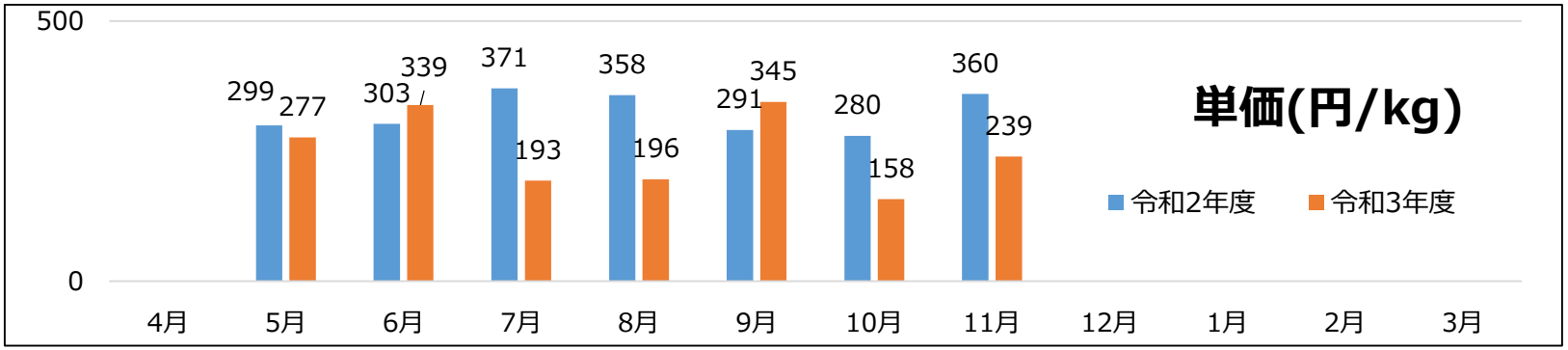
きゅうりの販売額の伸び悩み（JAかづの販売額データ）

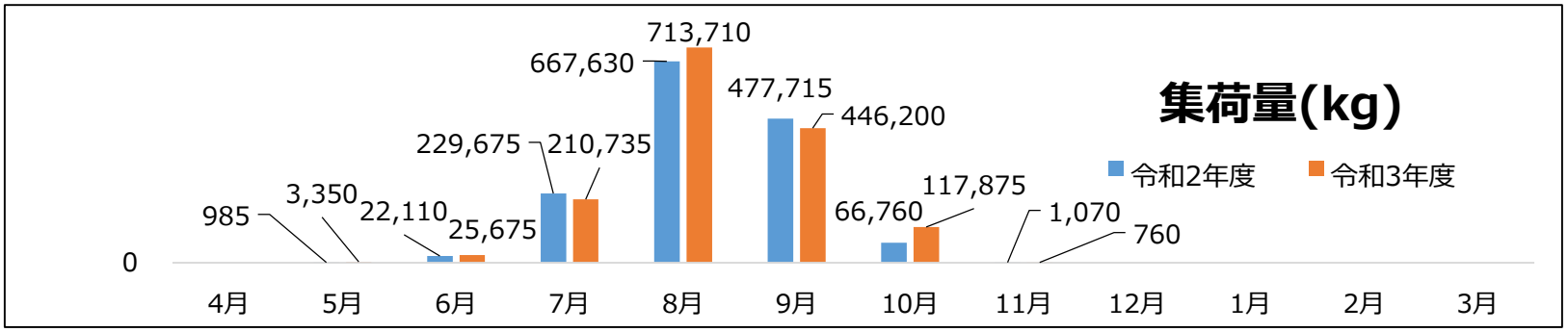
きゅうり				
年度	戸数（戸）	面積（ha）	生産量（t）	単収（kg/10a）
21	231	21.4	1,656.0	8,056
22	212	20.2	1,710.5	8,900
23	179	17.8	1,692.3	9,756
24	173	17.1	1,812.7	11,241
25	156	15.5	1,665.3	11,600
26	146	13.8	1,640.5	11,888
27	142	11.8	1,604.4	13,597
28	142	11.7	1,626.0	13,897
29	138	10.8	1,452.0	13,444
30	132	10.4	1,368.0	13,154
R1	132	10.4	1,559.6	14,996
R2	132	12.0	1,465.9	12,216
R3	134	10.4	1,518.3	14,599
JAかづの販売実績（鹿角市分）				

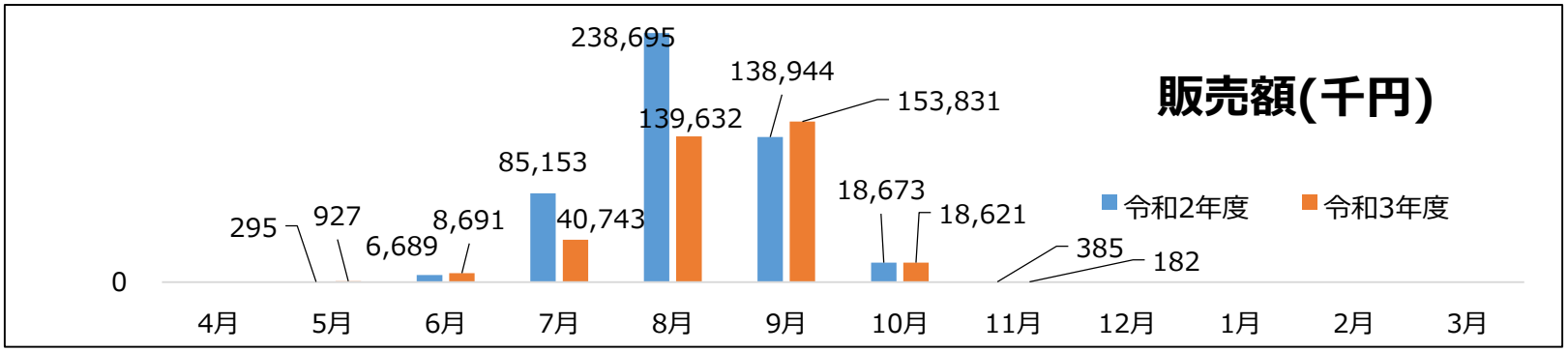


- 生産者数、面積は減少傾向→ここ数年は横ばい。
- 単収の向上により、生産量を維持している。あわせて販売額も横ばい傾向。（市場価格に大きく左右される。）

きゅうりの販売額の伸び悩み（JAかづの販売額データ）

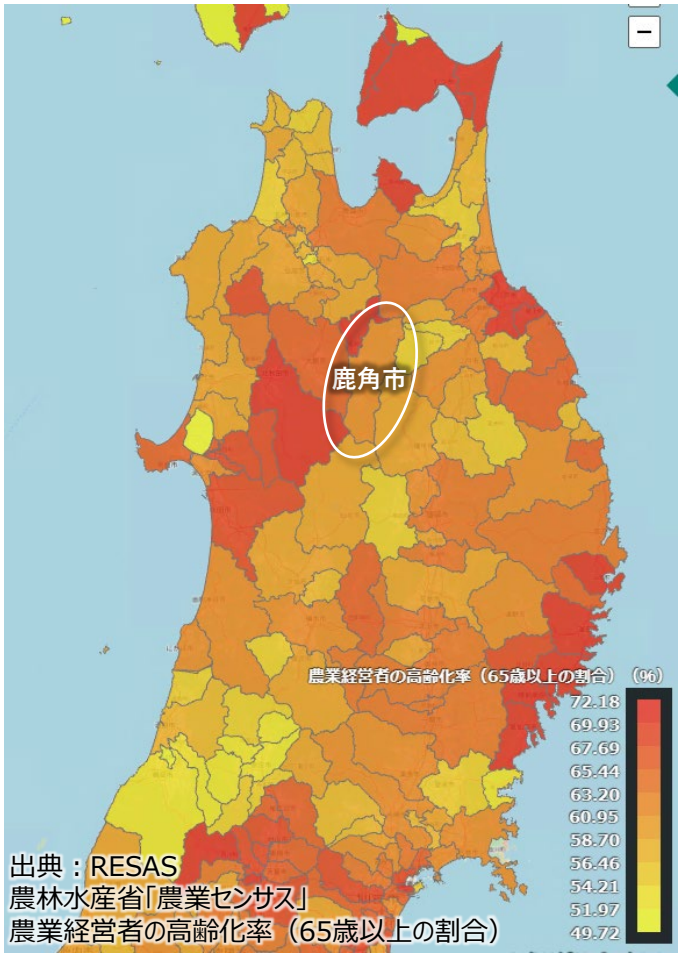


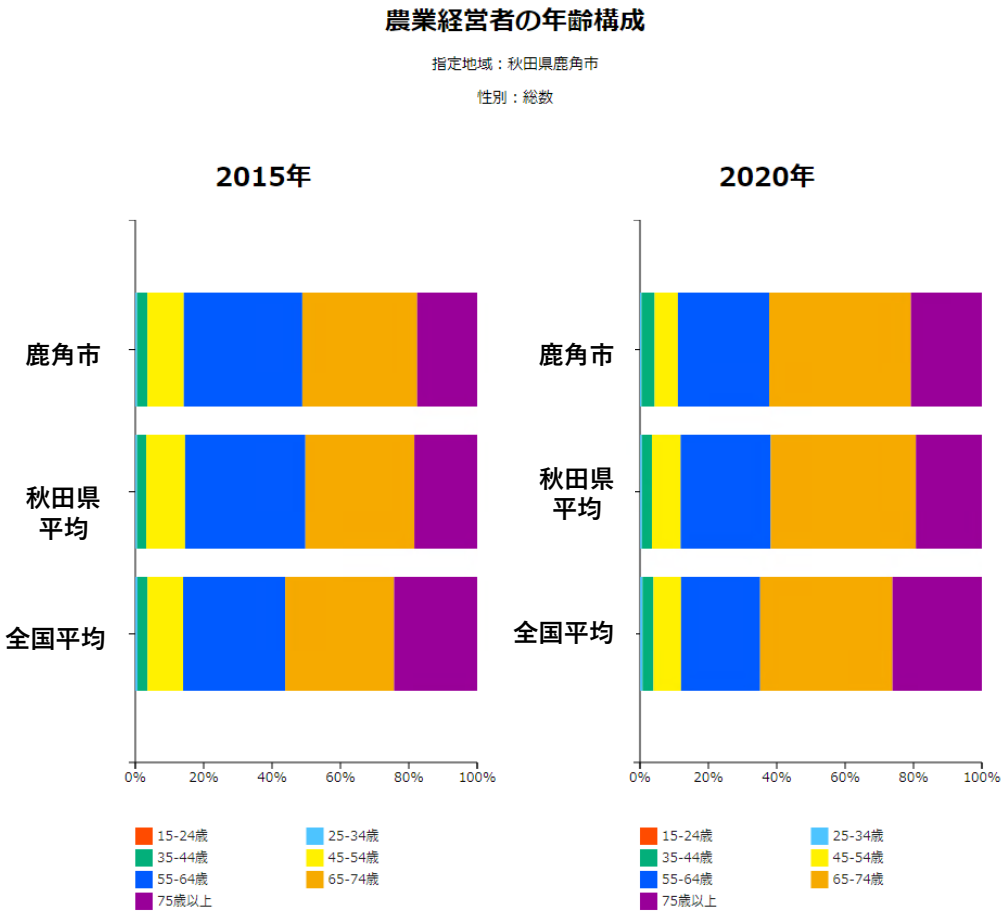




- 市場単価は、月・年で変動。
- 収穫は７月から採れはじめ、8-9月がピーク。
- 販売額は市場単価に左右される。

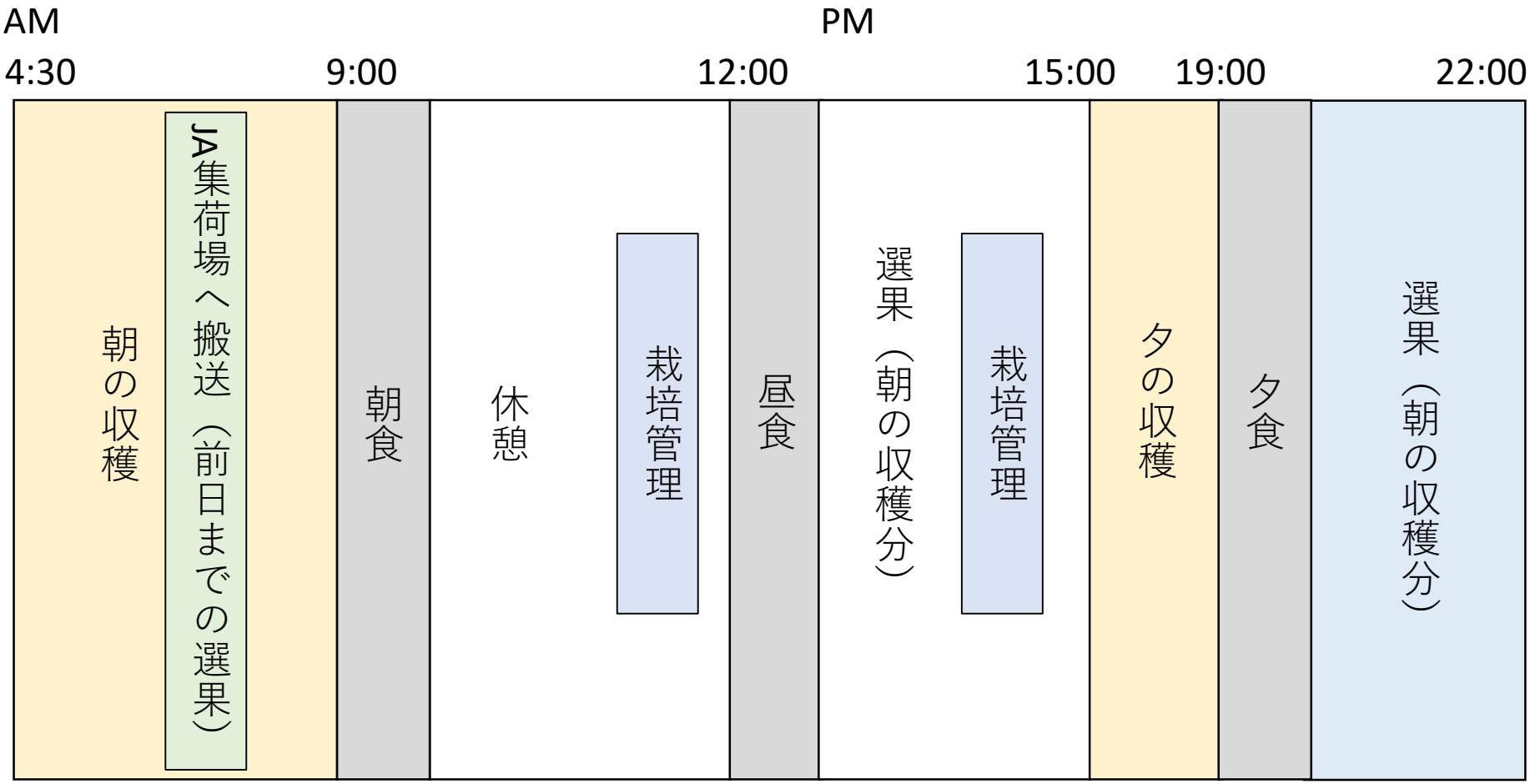
きゅうりの販売額の伸び悩み（農業者・従事者の高齢化）





- 農業経営者の高齢化率(62.22%)は秋田県平均に近い。→全県的に高齢化が進行
  きゅうりに限らず、**生産者の高齢化が進行している**。
- 基幹的農業従事者の高齢化率(72.67%)も同様。

あるきゅうり農家の一日（8月の最盛期）



- きゅうり露地栽培30aだと、経営指標上では計算上は36時間/1日あたりの労働時間
→家族4人総出で休日なしの計算となる。

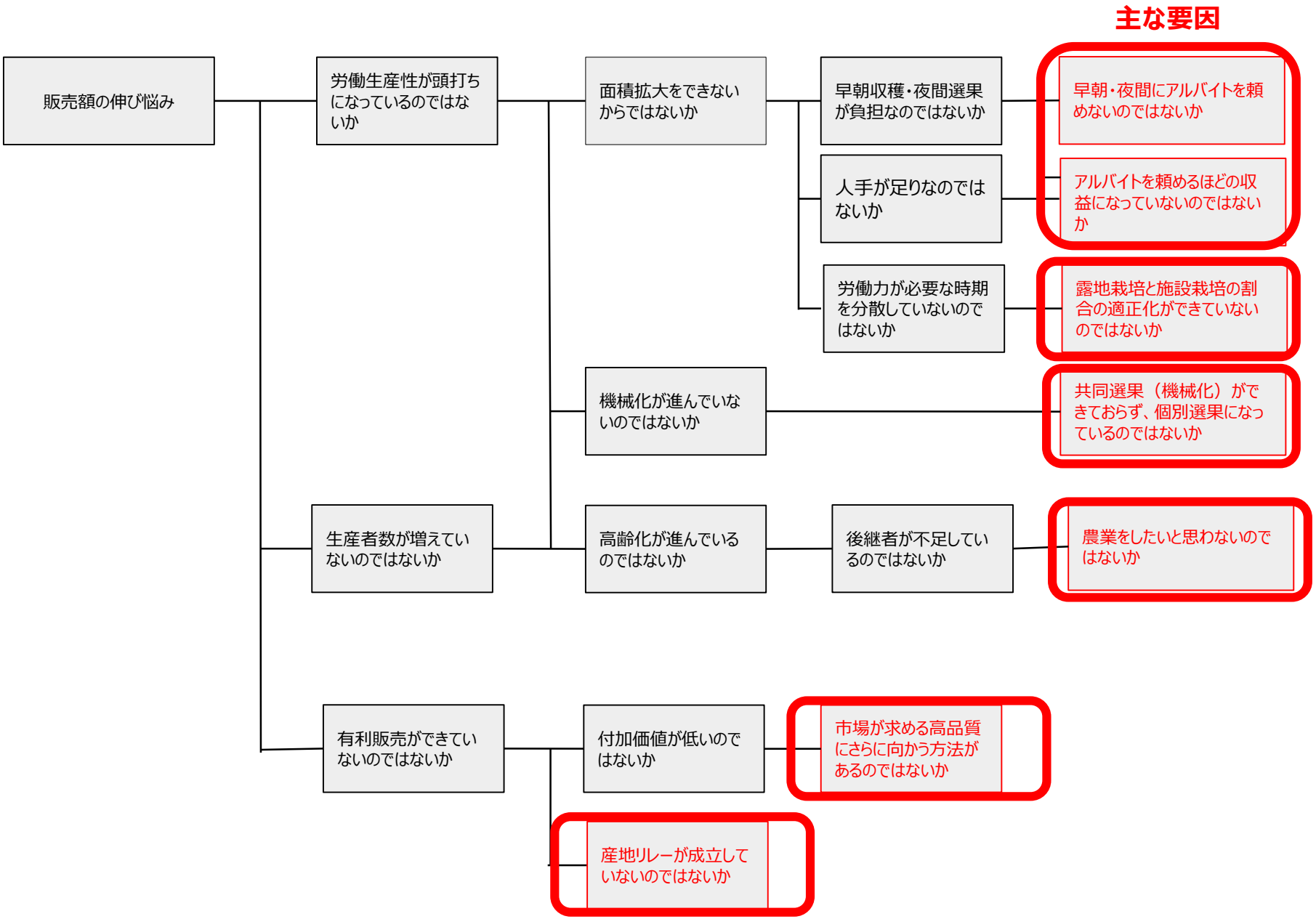
SWOT分析（鹿角のきゅうり）

	強み（strength）	弱み（weakness）
内部環境	・露地栽培なのに非常に高い単収(平均14t/10a)、県内一の生産量、R3販売額:3.6億円 ・**<u>生産者の技術が高い</u>**（栽培管理・土づくり・潅水システム） ・露地栽培に適した気候（収穫期間が長い）。初期投資がグッと抑えられる。 ・生産者がJAに出した日に市場に出荷 ・個別選果で高品質、手数料も安い ・新規就農者が比較的多い	・高単収を支えているのが人力と家族労働（朝・夕の収穫選別作業）のため、一経営体当たりの作付上限は20-30a。スケール化できない。 ・労働がきつい（早朝収穫、夜中選別） ・共同選果が導入されていない ・生産者の高齢化 ・ハウス栽培が進んでいない ・潅水システムの導入は約5割 ・販売額が伸び悩んでいる
	機会（opportunity）	脅威（threat）
外部環境	・寒冷な気候による産地リレー ・市場から一定の評価（独自規格22→21cmが若干高値） ・安定した市場価格（消費者からのニーズが安定している）	・気候などによる産地リレーのずれ→低単価 ・ブランドになっていない（高品質が市場で評価されていない）

注力すべき問題点：きゅうりの販売額の伸び悩み

注力すべき問題点の仮説を構造化

構造化した仮説から問題点の主な要因を抽出



早朝・夜間にアルバイトを頼めない

早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか

【令和４年１月改訂】秋田県の有効求人倍率（季節調整値）一覧

西 暦	和 暦	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	年計	年度計
2011年	平成２３年	0.48	0.50	0.50	0.49	0.48	0.51	0.54	0.56	0.57	0.58	0.60	0.62	0.53	0.57
2012年	平成２４年	0.64	0.63	0.65	0.68	0.70	0.70	0.69	0.70	0.69	0.69	0.68	0.70	0.68	0.69
2013年	平成２５年	0.67	0.68	0.69	0.69	0.69	0.70	0.71	0.72	0.74	0.76	0.78	0.80	0.72	0.76
2014年	平成２６年	0.84	0.86	0.88	0.88	0.88	0.89	0.90	0.91	0.91	0.95	0.96	0.99	0.90	0.94
2015年	平成２７年	1.01	1.01	1.02	1.02	1.03	1.02	1.07	1.09	1.08	1.09	1.09	1.08	1.05	1.07
2016年	平成２８年	1.08	1.09	1.08	1.11	1.14	1.16	1.21	1.20	1.21	1.20	1.24	1.26	1.16	1.21
2017年	平成２９年	1.28	1.27	1.29	1.30	1.34	1.36	1.36	1.37	1.40	1.42	1.44	1.45	1.35	1.41
2018年	平成３０年	1.49	1.47	1.55	1.54	1.51	1.52	1.54	1.54	1.54	1.55	1.53	1.52	1.52	1.53
2019年	平成３１年	1.53	1.54	1.52	1.52	1.50	1.49	1.46	1.43	1.43	1.50	1.46	1.47	1.48	1.45
2020年	令和　２年	1.43	1.39	1.38	1.35	1.27	1.25	1.22	1.21	1.21	1.22	1.25	1.27	1.29	1.28
2021年	令和　３年	1.34	1.33	1.35	1.38	1.44	1.48	1.53	1.53	1.53	1.51	1.47	1.47	1.44	1.49
2022年	令和　４年	1.54	1.53	1.51	1.53	1.52	1.50	1.49	1.50	1.48					

ハローワーク別求人・求職状況（令和４年９月）

ハローワーク別 / 項目	能代	大館	鷹巣	鹿角	県北計	秋田	男鹿	本荘	中央計	大曲	角館	横手	湯沢	県南計	局計
有効求人倍率	2.34	1.73	1.6	2.13	1.98	1.47	1.53	1.63	1.51	1.42	1.33	1.47	1.44	1.44	1.59
常用	2.18	1.65	1.52	2.02	1.87	1.35	1.16	1.44	1.36	1.15	1.17	1.36	1.32	1.26	1.44

- 有効求人倍率が高止まりで鹿角は県内でも上位。この状況で農業に人手を求めるのは難しい。

アルバイトを頼めるほどの収益構造になっていない

アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか

路地夏秋（6-10月）

面積(a)	30
粗収益(円)	7,800,000
所得(円)	4,244,340
所得率	54.4%

施設抑制（8-11月）

面積(a)	30
粗収益(円)	4,356,000
所得(円)	1,862,580
所得率	42.8%

施設半促成（5-7月）

面積(a)	30
粗収益(円)	6,372,000
所得(円)	3,495,291
所得率	54.9%

所得率は決して低くはないが、労働集約型作物であるため、**人手が増えたとしても作付け面積や販売額が単純に増加するわけではない**

↓

アルバイトを頼むと作業は楽になる

↓

一方で手取りが減る

- 家族労働で成り立っており、現状のままアルバイトを頼むと所得が単純に減少する。

露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていない

露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか

2020センサス　販売目的のキュウリの作付面積

		きゅうり（経営体数）														比率	
				路地						施設							
	市町村	経営体数	順位	経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積	順位	経営体数	順位	面積（a）	順位	1経営体あたりの面積	順位	路地面積	施設面積
1	秋田県	846		638		6,617		10.4		294		1,585		5.4		80.7%	19.3%
2	鹿角市	122	2	120	1	2,246	1	18.7	1	18	7	96	7	5.4	4	95.9%	4.1%
3	横手市	139	1	110	2	1,435	2	13.0	4	48	1	216	3	4.5	6	86.9%	13.1%
4	湯沢市	85	3	60	3	694	3	11.6	5	38	2	423	1	11.1	2	62.1%	37.9%
5	由利本荘市	58	6	38	7	553	4	14.6	2	24	5	45	8	1.9	11	92.5%	7.5%
6	羽後町	45	9	34	8	452	5	13.3	3	18	7	236	2	13.1	1	65.7%	34.3%
7	北秋田市	45	9	39	6	419	6	10.7	6	7	12	34	9	4.8	5	92.6%	7.4%
8	大館市	49	7	29	9	172	7	5.9	10	26	4	109	6	4.2	7	61.3%	38.7%
9	秋田市	66	5	51	5	150	8	2.9	14	17	9	22	11	1.3	14	87.2%	12.8%
10	大仙市	78	4	55	4	140	9	2.5	16	31	3	129	5	4.2	8	52.0%	48.0%
11	三種町	18	13	12	12	74	10	6.2	8	6	14	14	13	2.3	10	84.5%	15.5%
12	美郷町	30	10	16	10	63	11	3.9	11	18	7	182	4	10.1	3	25.7%	74.3%

- 県内他市町村に比べ、施設栽培の面積比率が一番低い。

共同選果（機械化）ができていない

共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか

キュウリ産地強化さらに　最新集出荷施設が稼働　福島・ＪＡ夢みなみ

一覧へ

2021年5月11日

ツイート　いいね！0　シェアする0　LINEで送る

全国一の産地として知られるＪＡ夢みなみのキュウリに、強力な新戦力が加わった。4月22日、管内の須賀川市で最新のキュウリ選果場が稼働を始めた。一日あたり50トン余りの選果能力を持ち、選果途中で傷果の発生を抑え、品質を維持できる。現在施設栽培のキュウリを出荷しているが、「これまでのキュウリと全然違う」（卸売会社）と、市場の高い評価を受けており、生産拡大に弾みがついている。

先月竣工した選果施設は、農畜産物集出荷施設（きゅうりん館）のプラントで、産地生産基盤パワーアップ事業を活用。延べ床面積225平方メートルに、イタマーズと称される7ライン7等級に選果できる施設で、5キロ箱で1日500ケースの選果能力を持つ。

この選果施設は、専用バケットにキュウリを1本ずつ載せるため、選果ラインに転がらずに移動させ、水平状態を保ったまま箱詰めまで移動できる。これによってイボ落ちや傷の発生を抑えることができる。

また鮮度計測機能を併せ持った外部品質センサーによって鮮度測定もできる。さらに415.8平方メートルの空調冷熱管理システムもあり、鮮度保持に最適な環境でキュウリの品質管理体制の確立が可能になる。

同ＪＡのキュウリは、旧ＪＡすかがわ岩瀬のキュウリとして知られ、春・夏秋キュウリで全国トップの地位を築いてきた。令和2年度は、コロナ禍で家庭消費が増え、1キロ300円前後と、価格がよかったこともあって、同ＪＡの販売高

現在の施設もの春キュウリの
で、その後の夏秋キュウリは
になる。

新鮮、朝採りキュウリ　山形の選果場稼働、出荷本格化

2022/4/5 10:53

県内一のキュウリ産地の山形市で4日、今年の出荷作業が本格的に始まった。同市南石関のＪＡやまがた西部営農センターきゅうり選果場が稼働し、朝採りキュウリが次々と規格ごとに選別された。2022年度は出荷量1872トン、出荷額5億5600万円を目指す。

同ＪＡ管内では、山形市を中心に広域きゅうり部会（菊地晋部会長）の生産者約180人がハウス栽培と露地栽培をしている。ハウス物については、今年は雪が多く、低温により温度管理が大変だったものの、生育は順調という。露地物は6月上旬の出荷を見込む。

この日は関係者約20人が出席して選果場の安全を祈願した後、専用の機械が稼働。従業員は病気や傷がないか念入りに確認し、手際よく箱に詰めていた。菊地部会長は「今の時期は香りが良く、みずみずしいのが特長。みそを付けて食べて、歯触りの良さも楽しんでほしい」と話していた。

つやのある朝採りキュウリが次々と選別された＝山形市・ＪＡやまがた西部営農センターきゅうり選果場

共同選果で産地強化

キュウリの生育を見る堀田部会長（愛媛県西予市で）

愛媛・東宇和農協 野菜生産出荷協議会きゅうり部会

リーダーズファイル

公式ウェブ動画掲載

高齢化で人手不足が進む中、出荷量を増やしている部会がある。愛媛県のＪＡひがしうわの東宇和農協野菜生産出荷協議会きゅうり部会だ。2018年の西日本豪雨で打撃を受けたが、共同選果を始めた19年から出荷量を伸ばし、21年は17年比7％増の1147トン、販売単価も上昇する。

同部会は県内最大の畜産地帯にある地域性を生かし、畜産堆肥を活用して栽培する。標高70～700㍍の標高差を利用し周年で出荷。露地6割、ハウスが4割を占める。

部会の高齢化が進み、17年の出荷量は過去最高だった1986年比で53％減。部会の約3割が70歳以上となる不利な地での生産効率化や新規就農者が見込めない販売力の低下が持に大きな影響

- 共同選果などの労働力支援があれば、産地としての増産体制が進むのではないか。

農業をしたいと思わない

農業をしたいと思わないのではないか

図１　49 歳以下の新規就農者数の推移（就農形態別）

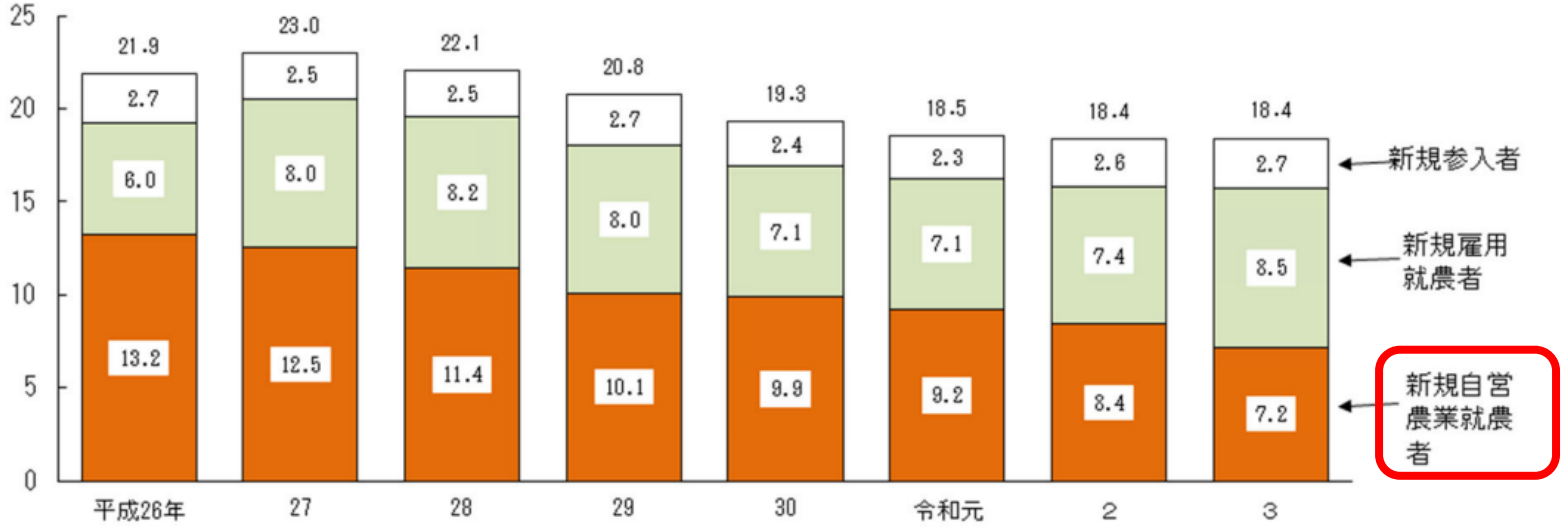


表２　新規自営農業就農者数

単位：人

区分	計		男女別	
		49歳以下	男	女
令和２年	40, 100	8, 440	29, 550	10, 550
3	36, 890	7, 190	28, 860	8, 030
増減率（%）	△　8. 0	△ 14. 8	△　2. 3	△ 23. 9
構成比（%）				
令和２年	100. 0	21. 0	73. 7	26. 3
3	100. 0	19. 5	78. 2	21. 8

- 新規参入者：農外からの新規参入
- 新規自営農業就農者：
  家業の農業を承継又は実家が農家

- 家業の農業の後継として就農する方は、全国で見ても年々減少している。

04 鹿角市のきゅうりの販売額を増加させるために

農業分析

７次総を踏まえた既存施策の整理

「農業生産」への対応策（内部的）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
◆省力化・収量増（ハード） **・スマート農業推進事業（拡充）** **・各種機械等導入支援に関する事業（継続）** 【期待する効果】高齢化への対応。収量・品質の増加。 ◆人手不足（ソフト） **・農業サポーターマッチング事業（拡充）** 【期待する効果】人材確保による生産拡大	基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します **③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化** **④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上**	早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか 露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか 共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか
◆担い手不足（新規就農者の増加） **・新規就農者育成支援事業（拡充）** 【期待する効果】人材確保による生産拡大、	取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します **③農林業の担い手育成と定着支援**	農業をしたいと思わないのではないか

マーケットインの考えから出発して 作付け拡大 *or* 単収向上 *or* 新規就農

「流通経路」への対応策（外部的）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
◆価格へ転嫁できる取り組み（有利販売） **・農畜産物販売促進事業、アグリビジネス支援事業（継続）** 【期待する効果】 プランディング 域内流通（観光・食品製造との連携） 他市場、ふるさと納税、ECサイト 系統出荷（まずはゼロ予算、県・JAと連携）	経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む 取組方針23_販売重視型農業と６次産業化を進めます ①、②、③	市場が求める高品質にさらに向かう方法があるのではないか 産地リレーが成立していないのではないか

７次総を踏まえた新たな施策の検討

生産拡大

既存の生産者支援（生産モデル）

- 作付け面積増加
- 単位面積あたりの苗数の増加
- 単収のさらなる向上・底上げ
- 労働集約の解消

新規就農者のさらなる増加

- 生産モデルの構築
- 研修制度の充実

鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します **③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化** **④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上**	早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか 露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか 共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか
取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します **①農林業の担い手育成と定着支援**	農業をしたいと思わないのではないか

マーケットインの考えから出発して 作付け拡大 *or* 単収向上 *or* 新規就農

有利販売を進める（ブランド）

- 市場分析
- 知名度を上げる
- 特色を出す

鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む 取組方針23_販売重視型農業と６次産業化を進めます ①、②、③	市場が求める高品質にさらに向かう方法があるのではないか 産地リレーが成立していないのではないか

７次総を踏まえた新たな施策の検討

生産拡大

既存の生産者支援（生産モデル）

- 作付け面積増加
- 単位面積あたりの苗数の増加
- 単収のさらなる向上・底上げ
- 労働集約の解消

新規就農者のさらなる増加

- 生産モデルの構築
- 研修制度の充実

鹿角市第7次総合計画との関連性

①所得向上モデル
②作付け支援
③技術向上・機械化
事例：JA主導型（**JAあきた白神、JAひがしうわ**）

の維持・向上

〇施設栽培、研修、高所得
事例：移住と組み合わせた
徳島県海部地区「きゅうりタウン構想」

解消したい要因

- 早朝・夜間にアルバイトを頼めないのではないか
- アルバイトを頼めるほどの収益になっていないのではないか
- 露地栽培と施設栽培の割合の適正化ができていないのではないか
- 共同選果（機械化）ができておらず、個別選果になっているのではないか
- 農業をしたいと思わないのではないか

マーケットインの考えから出発して 作付拡大 *or* 単収向上 *or* 新規就農

「流通経路」への対応策（外部的）

有利販売を進める（ブランド）

- 市場分析
- 知名度を上げる
- 特色を出す

系統出荷（まりはと白子菜、県・JAと連携）

市第7次総合計画との関連性

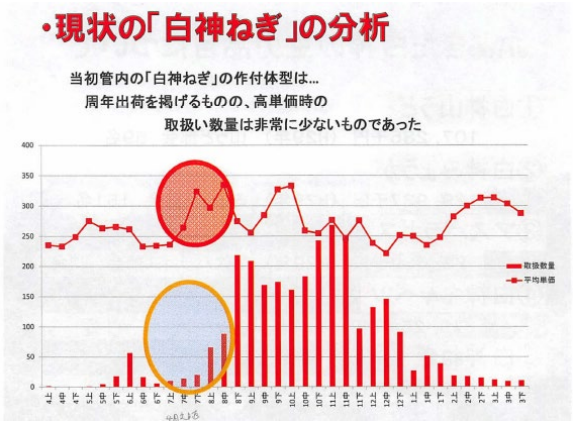
①、②、③

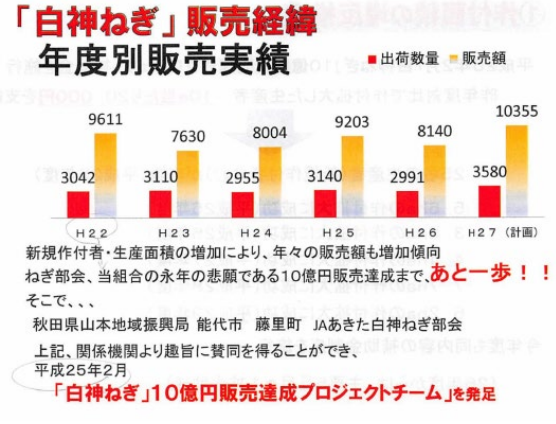
事例：
JAうご「ブラックきゅうり」
JAあきた白神「白神ねぎ」

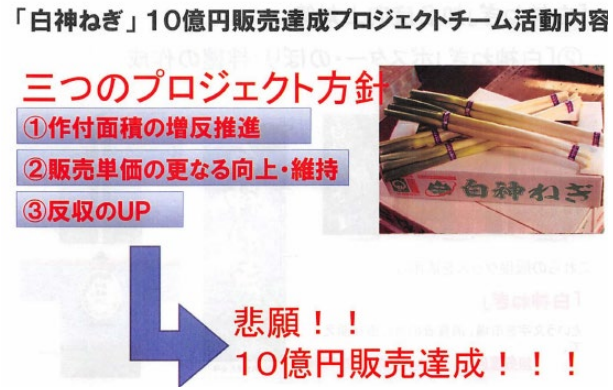
解消したい要因

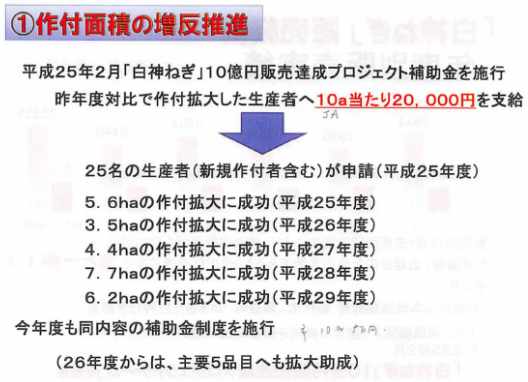
- 場が求める高品質らに向かう方法がのではないか
- 地リレーが成立していないのではないか

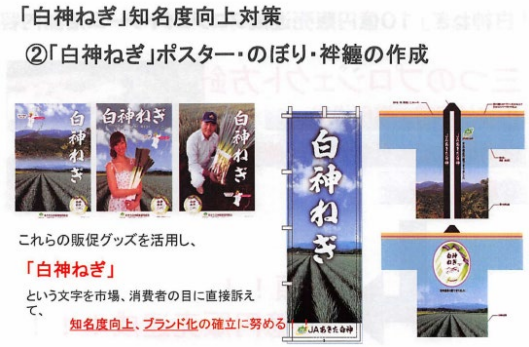
[A] JAあきたしらかみの事例

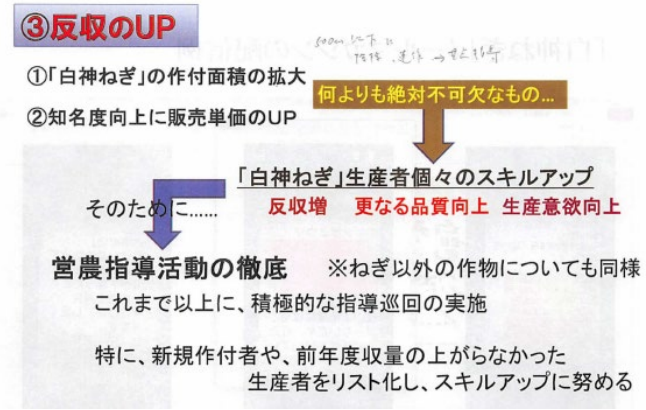












- 白神ねぎのブランド化、販売目標１０億を目指し、市場分析を行い、これに合わせた増産体制を整え、達成した。

[B] JAひがしうわの事例

共同選果で産地強化

キュウリの生育を見る堀田部会長（愛媛県西予市で）

愛媛・東宇和農協
野菜生産出荷協議会きゅうり部会

リーダーズファイル

公式ウェブ動画掲載

高齢化で人手不足が進む中、出荷量を増やしている部会がある。愛媛県のJAひがしうわの東宇和農協野菜生産出荷協議会きゅうり部会だ。2018年の西日本豪雨で打撃を受けたが、共同選果を始めた19年から出荷量を伸ばし、21年は17年比7%増の1147トン、販売単価も上昇する。

同部会は県内最大の畜産地帯にある地域性を生かし、畜産堆肥を活用して栽培する。標高70～700㍍の標高差を利用し周年で出荷。露地6割、ハウスが4割を占める。

部会の高齢化が進み、17年の出荷量は過去最高だった1986年比で53%減。部会の約3割が70歳以上となる一方、条件不利地での生産も多く、効率化や新規就農の確保が見込めない。

販売力の低下は産地維持に大きな影響があるとして、JAえひめ南との共同選果に取り組んだ。20年にJAひがしうわ野村共選場として荷姿名などを統一・生産者を確保し、選果機の効率利用と単価向上を狙った。生産量が増え市場から引き合いがあり、241円だった17年の単価は19年に274円、20年329円、21年は245円に上昇。特に20年は、1戸当たりの販売額が1974年以降で過去最高になった。

出荷量増、単価も向上

JAひがしうわ営農部指導課の兵頭俊樹課長は「経費の面でもメリットがある」と強調。段ボール箱などの資材が高騰し、利用者が少ないままだと、手数料を上げなければならなかったとみる。

18年7月の西日本豪雨で、選果機や冷蔵施設などが浸水被害を受け、荷受けや選果が不可能に。部会は早期出荷を実現するため、規格を10から3に減らし手選果で対応。集荷車両も使えず、仮設荷受け場所や地区の集荷場に荷を自ら持ち込んだ。手選果の経験がない生産者には、選果場の従業員がサポート。部会で助け合えたことが災害3日後の出荷再開につながった。同部会の堀田静男部会長は「多くの生産者がいるありがたみを感じた」と話す。

取り組みが評価され、21年度に第51回日本農業賞集団組織の部優秀賞を受賞した。（船津優也）

部会長 堀田静男さん

産地は西日本豪雨では、出荷直前のキュウリが販売できない人やハウスが流される人もいた。生産者が多くいたから災害を乗り越えられた。選果機を含め、産地維持の必要性を強く感じた。ただ、一つの地域で産地を維持するのは難しい。近隣の町などと連携し、生産者の輪を広げたい。

概要
部会員数＝76人（21年）
販売額＝2億3310万円（21年）※JAひがしうわだけ

- 生産者を確保し、共同選果に取組。生産量が増え、効率利用→単価向上。

[C]徳島県海部地区「きゅうりタウン構想」の事例

徳島県　海部郡　牟岐町・美波町・海陽町

きゅうりタウン構想
移住就農者募集で産地拡大による地域活性化へ

徳島　新聞　夕刊　月刊　2015年(平成27年)6月24日　水曜日

海部地区に「きゅうりタウン」

栽培面積・所得 大幅増図る

県構想 3町・JAと推進

徳島県南部総合県民局
産業交流部（美波）
海部プロジェクト担当

〒779-2305　徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1
電話（0884）74-7412　　FAX（0884）74-7377

促成きゅうり、移住就農者募集で産地拡大による地域活性化へ

現状

①海部郡内・促成きゅうり産地の歴史
昭和23年から約70年、一時100名の部会員も約40名に減少

②高齢者が多く新規参入がなければ15年後産地は1/2と予測される・・。

プラス面

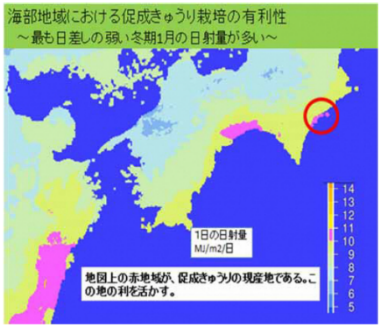
①郡内へ30代Uターン者は、近年、幾らか存在

②平均反収17.6t（H19）→23.t（H25）へ30t超5名

③新規就農の1年目経営実例
低コスト自力施行ハウス12aできゅうり売上630万所得250万。栽培技術もほぼ完成しつつある。

④全国きゅうり生産量：全体でH8→H23　24%減
施設生産量：H13→H23　21%減
輸入は、塩蔵を除きほとんど皆無

⑤



そこで提案

きゅうりタウン構想を策定（H27.6.23）

きゅうりタウン構想
～促成きゅうりを核とした地方創生を目指して ～

① １０年後、産地面積　10.0 ha　② 平均反収30t/10a穫り　③ 所得：1000万円以上(30aの場合)

現状
- 県内一の促成キュウリ産地。
- 栽培技術の高い産地　（収量20t/10a以上の栽培者が半数以上,32t/10aの篤農家の存在）
- 収益性に優れている　（所得：690万円（30aの場合）※美波農業支援センター調べ

【問題点】
- 担い手不足や高齢化等の要因で近年、栽培面積が減少し弱体化が進行。

【課　題】
- 新規就農者の確保・育成によるかいふ産地の再生。
- 更なる栽培技術向上により若者に魅力をもたせる経営の確立。

１０年後のめざす姿
- 安定ある全国有数の産地（栽培面積10ha）
- 栽培技術力の日本一(収量：30t以上/10a)
- もうかるかいふきゅうり経営(所得：1000万円)
- 若手就農者の増大による産地の活性化

所得400万円（15a経営）夏季2ヶ月休暇で地域に人を呼ぶ。 → 若者増加 定住人口増加へ

きゅうりタウン構想実現のPHASE

① 経営モデル調査 → ② 研修体系システムの確立 → ③ 次世代技術導入 匠の技継承 → ④ 移住就農者募集

海部次世代園芸産地創生推進協議会（JAかいふ・牟岐町・美波町・海陽町・南部県民局）

- きゅうり産地が衰退。産地拡大のため、経営モデルを作り移住者を獲得する構想作成→実行。

[D] JAうご「ブラックきゅうり」の事例

JAうごの最高級きゅうり

ホーム / JAうごのきゅうり

お知らせ ブラックきゅうりご購入等のお問い合わせについて

「ブラックきゅうり」は、JAうごから直接ご購入いただく事はできません。市場においても数量が極めて少なく貴重なため、需要の高い商品となっております。
「ブラックきゅうり」は、全量大田市場様へ出荷され、その後各地の青果店様等へ流通されておりますが、流通先まではお伝えできない状況となっております。誠に申し訳ございませんが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

日本の市場で最も高い評価を得ている

JAうご産きゅうり 通称「ブラック」

日本の市場で最も高い評価を得ているきゅうりは、JAうごで生産されています。

JAうご管内の羽後町元西地区は、30年以上前から中央統一市場（現・大田市場）で「最高級きゅうり」の一つとして扱われてきた「元西きゅうり」の産地です。JAうごはその伝統を受け継ぎ、工夫と改良を積み重ねて、最高品質のきゅうりを作りつづけています。

現在、JAうごのきゅうりは大田市場に**「超一流品」**と評価され、**全国のきゅうりの相場を決定するひとつの指標**となっているそうです。

“ブラック”という異名を持つ最高級きゅうり

市場からも最高品質と認められたJAうご産きゅうりは、市場での流通過程で**「数ある箱のなかで、ひと目で判断できるようにして欲しい」**という声が寄せられるようになりました。野菜といえば茶色か白のダンボールが主流。その中、このJAうご産きゅうりだけがひと際目立つ**『ブラックダンボール』**で流通するようになったことから、生産農家や業界の人々はこう呼ぶようになりました。

JAうご最高級きゅうり＝通称『ブラック』と。

- 品質が市場で高い評価を受けブランド化。

05 今後の鹿角市のきゅうりの目指す方向

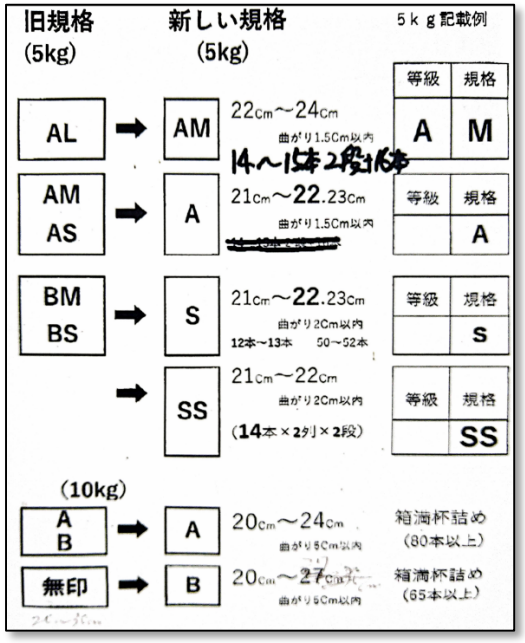
農業分析

鹿角のきゅうりの現在の強み

◆ これまでの分析から、既にある強みとは・・・・

➢ **生産者の高い技術**

- **単収が高い**
- **市場ニーズに合わせた規格のきゅうりを生産する技術**
- **市場と協力し、新たな品種を積極的に生産する技術**



旧規格 (5kg)		新しい規格 (5kg)		5kg記載例 等級	規格
AL	→	AM	22cm～24cm 曲がり1.5cm以内 14～15本 2段3列	A	M
AM AS	→	A	21cm～22.23cm 曲がり1.5cm以内		A
BM BS	→	S	21cm～22.23cm 曲がり2cm以内 12本～13本 50～52本		S
	→	SS	21cm～22cm 曲がり2cm以内 (14本×2列×2段)		SS
(10kg)					
A B	→	A	20cm～24cm 曲がり5cm以内	箱満杯詰め (80本以上)	
無印	→	B	20cm～27cm 曲がり5cm以内	箱満杯詰め (65本以上)	

これらの強みを活かし、他地域と差別化することで

鹿角産きゅうりの「ブランド化」を図りたい！

鹿角のきゅうりの目指す方向（仮説）

◆ 他地域との差別化のために・・・・

●新たな生産モデルをつくる！

- **施設栽培の導入**
- **出荷期間の延長**
- **所得の増加**
- **作業の平準化**

＋DX

＋共同選果

POINT!!

- これまで培ってきた高い生産技術を活かし伸ばすことで、生産量の増加を目指す！！

鹿角のきゅうりの目指す方向（仮説）

◆ 他地域との差別化のために・・・・

●新規就農者の獲得を目指す！

- **生産技術の横展開**
- **生産者部会の組織力強化**
- **若者に魅力ある所得の確保**
- **〃　　栽培体系の構築**
- **就農希望者に向けて、鹿角のきゅうり生産の魅力をPR**
  ＋DX
  ＋共同選果

POINT!!

- 新規就農者は身近に高い生産技術を持った、生産者からノウハウを学ぶことができる。
- きゅうり生産は、初期投資が少ないため、取り組みやすい。短期間で成果が出る。

鹿角のきゅうりを盛り上げるために！

① 現在の強み

- 生産者の高い技術
- 単収が高い
- 市場ニーズに合わせた規格のきゅうりを生産する技術
- 市場と協力し、新たな品種を積極的に生産する技術

② 生産量の増加を目指す

●新たな生産モデルをつくる！

- 施設栽培の導入
- 出荷期間の延長
- 所得の増加
- 作業の平準化

＋DX
＋共同選果

本日議論していただきたいトコロ

●新規就農者の獲得を目指す！

- 生産技術の横展開
- 生産者部会の組織力強化
- 若者に魅力ある所得確保
- 若者に魅力ある栽培体系の構築
- 就農希望者に向けて、鹿角のきゅうり生産の魅力をPR

＋DX
＋共同選果

本日議論していただきたいトコロ

③ ブランド力の向上

産地としての底上げへ！